

7 「授業改善のための工夫の見せどころシート」の取組

「授業改善のための工夫の見せどころシート」は、日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」をもとに、熊本県立第二高等学校版として作成したものです。このシートを埋めるという応用問題に取り組むことで、わからないところがあれば知識獲得へ自ら取り組む、というID的な学び方ができる作りになっています。

このシートを考える際に活用するために選んだ10のツールは次ページの通りです。記述中に鈴木克明監修「インストラクショナルデザインの道具箱101」（北大路書房）のページが記載されています。必要な場面で、どうぞ御活用ください。

10のツールの1つ「ARCSモデル」を使って、本校の探究活動を分析してみたのが下図です。ARCSモデルを使うことで、一層効果的な取組になったり、効率化が図れたり、一層魅力ある取組みにすることにつながっていきます。まずはARCSモデルを使って、改善へ向けた工夫のアイデアを見いだしてみたいはいかがでしょうか？

ARCSモデルの「R」は、Relevance：関連性という視点です。これはICEモデルで表現すれば「C：Connections・つながり」とも捉えることができます。このように、ツールの中を読み解いていくと、ICEモデルとクロスするものも見いだせるのではないのでしょうか？先生方が使いながら、見いだしていただくと、理解を深め、活用しやすくしていくものと考えます。

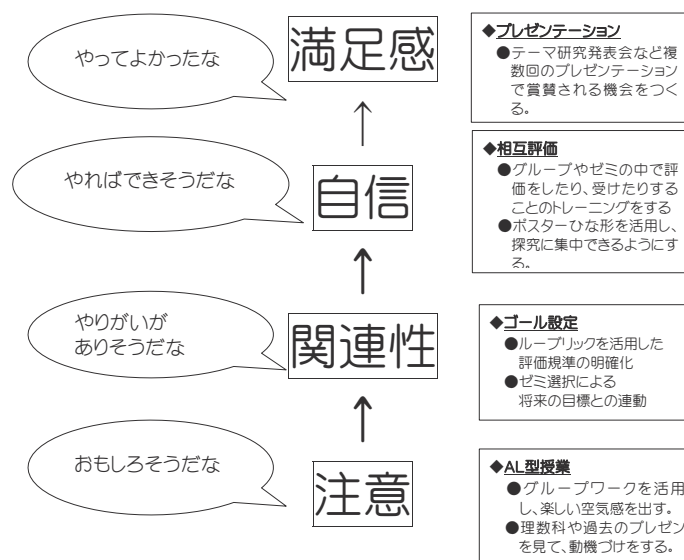
IDインストラクショナルデザインの一步

第二高校の探究活動をIDで分析してみました。

STEP 1

先生方がすでに実践されていることをIDで表すと？

ARCSモデル



最後に、探究についての「みつめる力」「きわめる力」「つなげる力」の一例を再掲します。

「みつめる力」

- (1) 課題発見力（観察から気づく力）
- (2) 発想力（アイデアを思いつく力）
- (3) 収集したデータから違いを発見する力
- (4) これまでの自分の経験（熊本地震の経験も含む）を課題発見に活かす力

「きわめる力」

- (1) 計画する力
- (2) 計画したことを実行する力
- (3) 情報収集能力
- (4) 論理的に考える力
- (5) 仮説を設定する力
- (6) 文章やレポートを作成する力

「つなげる力」

- (1) 既存のものを組み合わせて創り出す力
- (2) コミュニケーションする力
- (3) プレゼンテーションする力
- (4) 社会の課題と研究を関連づける力
- (5) 統率する力（リーダーシップ）
- (6) 英語で表現する力

ID : インストラクショナル・デザイン入門

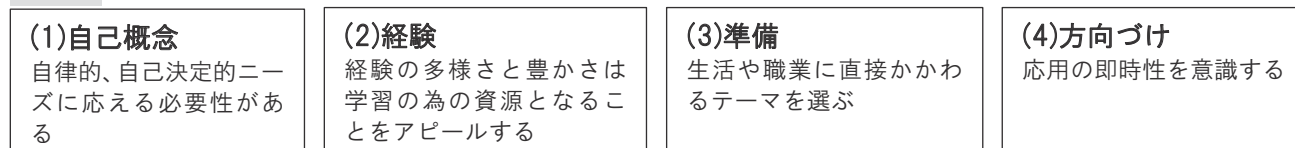
それぞれの環境において、最適な教育効果をあげる方法を設計するためのヒント

(ページは鈴木克明監修「インストラクショナルデザインの道具箱101」北大路書房より)

TOOL 1 学習意欲を高める作戦 (ARCSモデル)・16p



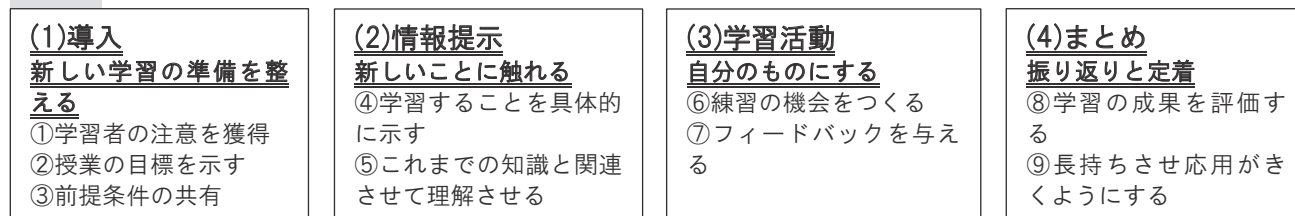
TOOL 2 大人の研修のための作戦 (アンドラゴジーAndragogy)・28p



TOOL 3 授業設計の原則 (メリルのID第一原理)・40p



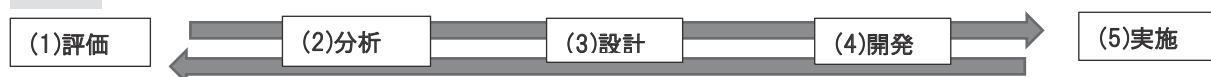
TOOL 4 学習プロセスを助ける作戦 (ガニエの9教授事象)・44p



TOOL 5 同じ課題で学習者の成績の差が大きいとき (ジョン・B・キャロル 学校学習の時間モデル)・86p

$$\text{学習率} = \frac{\text{学習に費やされた時間}}{\text{学習に必要な時間}} = \frac{\text{学習機会} \times \text{学習持続力}}{\text{課題への適性} \times \text{授業の質} \times \text{授業の理解力}}$$

TOOL 6 活動全体の振り返り(ADDIEモデル)・116p



TOOL 7 授業設計を有効に行うための指針 (メーガーの3つの質問)・154p

- (1)学習目標～Where am I going?
- (2)評価方法～How do I know when I get there?
- (3)教授方略～How do I get there?

TOOL 8 学習レベルがばらついている場合の対応 (TOTEモデル)・162p



TOOL 9 指導方法や評価方法の整理(学習成果の5分類)・166p

	学習成果	成果の性質	行動動詞
認知的領域	言語情報	暗記、再生的学習	述べる、言う、説明する、あげる
	知的技能	規則を適用する	応用する、適用する、分類する、区別する、解く
	認知的方略	自分の学習を効果的に行う	採用する
運動領域	運動技能	身体を動かす、コントロールする	行う、実現する
情意領域	態度	ある物事や状況を選ぶ	選ぶ、主体的に〇〇する、拒否する、他の活動を選ぶ

TOOL 10 評価を計画(4段階評価モデル)・196p

レベル	評価内容	評価対象
(1)反応(Reaction)	参加者の反応	受講者アンケート
(2)学習(Learning)	理解度確認	事後テスト、パフォーマンステスト
(3)行動(Behavior)	学んだことが実践できているか	フォローアップ調査、上長アンケート
(4)結果(Result)	組織の業績に貢献できたか	効果測定チェックリスト、ROI指標

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 国語 氏名

授業実施日：令和1年11月1日

本時の見せどころは・・・

紫の上の臨終を間近にして、光源氏と明石の中宮がどのような思いを和歌に込めたのかを読み味わう。

視点			記述欄
科目・研修名			古典
出入口	1	生徒・受講者	① 所属 普通科3年3組 ② 人数 42人（男子22人、女子20人） ③ グループで語彙力・文法力を補い合って、古典を読み進めている。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 『源氏物語』若紫の巻 次にどこで使いますか 問題演習における語彙・文法の理解、和歌の意味や物語展開の把握
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	① 題材『源氏物語』御法 紫の上の死 ② C/Eの問い 臨終の場面から窺える紫の上の美しさとは？ ③ 方法 ☒ 講義 ☐ 演習 ☒ グループワーク ☐ 実演 ☐ 実習 ④ ICT ☐ 実物投影機 ☐ タブレット ☐ _____ ⑤ 単元計画 (1) 作品・作者に関する予備知識の確認と第一段落の読解 紫の上の病状。 (2) 第二段落の読解 紫の上の明石の中宮に対する配慮。 (3) 第三段落の読解 病床に伏す紫の上の美しさ。 (4) 第四段落前半の読解 自身の死後の源氏を思いやる紫の上の愛情。 (5) 第四段落後半の読解（本時）源氏と明石の中宮の和歌に込めた思い。 (6) 第五段落の読解 紫の上の臨終と源氏の思い。
出口・評価	4	教員の評価の方法	①方法 ☐ 小テスト、 ☒ 定期考査、 ☐ レポート、 ☐ シート提出、 ☐ 実技テスト ②ICEに当てはめると？ ☒ Ieas（知識・技能の習得）： 『源氏物語』の文学史的価値・作品の展開や登場人物に関する知識 ☒ onnections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 語彙・文法の知識を活用して本文を読解し、登場人物の言動や和歌を通して心情の変化を理解する ☒ xtensions（応用・活用）： 作品における「死」の描写から当時の美意識や死生観について考察する
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★★★ ★★★ ★☆☆
生徒の自己評価	6	生徒のリフレクション	登場人物の言動や和歌を正しく理解し、そこから心情の変化を辿ることができたか？ 愛する人を失う悲しみを読み味わうことができたか？
	7	ICEモデルに当てはめると	☒ Ieas（知識・技能の習得）： 作品および作者に関する知識は身についたか？ ☒ onnections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 語彙・文法の知識を活用して内容を正確に読解できたか？ ☒ xtensions（応用・活用）： 「死」に対する当時の人々の認識に触れ、私たちが学ぶべきものについて考察し、自らの生活に生かす態度を身に付けることができたか？
継続	8	教員のリフレクション	『源氏物語』の名場面を読み味わうことで、愛と死に関する普遍性ととともに、古典の世界特有の死生観や美意識を実感させることができたか？
	9	IDモデルに当てはめると？	ARCSモデル

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 国語 氏名 _____

授業実施日：令和元年11月1日

本時の見せどころは
冒頭の一文から、自分の気持ちを表現しやすい方法を考える。

視点			記入欄
科目・研修名			国語総合
出入口	1	生徒・受講者	①所属 普通科1年1組 ②人数 41人（男子23人、女子18人） ③特徴・ニーズ 男子を中心に活気はあるが、コツコツが苦手。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 古典文法、古文単語、古典常識 次にどこで使いますか 文章読解全般
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 門出（『土佐日記』） ②C/Eの問い 「紀貫之の思いを読み取ってみよう」 ③方法 ☒ 講義 ☒ 演習 ☒ グループワーク ☐ 実演 ☐ 実習 ④ICT ☐ 実物投影機 ☐ タブレット ☐ _____ ⑤単元計画 (1)「門出」 P82 3行目～P83 3行目（本時） (2)「門出」 P83 4行目～6行目 (3)「帰京」 P84 2行目～6行目 (4)「帰京」 P84 7行目～12行目 (5)「帰京」まとめ P84 13行目～P85 3行目
出口・評価	4	教員の評価の方法	①方法 ☐ 小テスト、 ☒ 定期考査 ☐ レポート ☐ シート提出 ☐ 実技テスト ②ICEに当てはめると？ ☐ ideas（知識・技能の習得）： ・重要古語、文法事項を確認させる ・月の異名、十二支による時刻の表現を確認させる ☐ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： ・重要古語、文法事項を踏まえて訳出させる ☐ extensions（応用、活用）： ・自分の気持ちを正確に表現しやすいのはどのような形か。また自分の思いを書くことで、どのような気持ちになるかを考えさせる。
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★☆☆ きわめる力 ★☆☆ つなげる力 ★★★
生徒の自己評価	6	生徒のリフレクション	他の文章でも同じような発想で応用できるか。
	7	ICEモデルに当てはめると	☐ ideas（知識・技能の習得）： ・重要古語、文法事項、月の異名、十二支による時刻の表現を確認できたか。 ☐ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： ・重要古語や文法事項を踏まえて訳出できたか？ ☐ extensions（応用、活用）： ・自分の気持ちを正確に表現しやすいのはどのような形か。また自分の思いを書くことで、どのような気持ちになるか。
継続	8	教員のリフレクション	今回出てきた知識を含めて、繰り返して、徹底させる。
	9	IDモデルに当てはめると？	Tool4

※日本教育工学会 FD セミナー「大学授業設計の点検ワークシート」（2015）に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 国語 氏名 _____

授業実施日：令和元年11月

視点			記述欄
科目・研修名			国語総合（現代文）
出入口	1	生徒・受講者	①所属 普通科1年5組 ②人数 41人（男子22人、女子19人） ③特徴・ニーズ 真面目で熱心に取り組む。現代文の基礎学力は全体的に高い。読解力が高いが、感性、文学性、表現力を問うものは苦手とする生徒も多い。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 基本的な古語。 次にどこで使いますか 1年次教材（現代文）
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 「贅のうへ」（三好達治） ②C/Eの問い 「『ひとりなる／わが身の影をあゆまする贅のうへ』という表現から、どのような姿が想像されるか。また、どのような心情が受け取れるか、考えよう」 ③方法 ☒ 講義 ☒ 演習 ☒ グループワーク ☐ 実演 ☐ 実習 ④ICT ☐ 実物投影機 ☐ タブレット ☐ _____ ⑤単元計画 (1) プリントを使用した、詩、表現の鑑賞、作者の紹介など（本時） (2) 問題集を用いて、他作品の問題演習を行う。
出口・評価	4	教員の評価の方法	①方法 ☐ 小テスト、 ☒ 定期考査、 ☐ レポート、 ☒ シート提出、 ☐ 実技テスト ②ICEに当てはめると？ ☒ Ieas（知識、技能の習得）： 語句の意味、近現代詩人の簡単な知識 ☒ onnections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 古語、明治時代の習俗、三好達治と近しい関係の詩人とその作品 ☒ xtensions（応用、活用）： 詩の鑑賞、解釈について討議
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★★★★★ きわめる力 ★☆☆ つなげる力 ★☆☆
生徒の自己評価	6	生徒のリフレクション	詩の主題を考え、把握できたか。また、詩の特徴を捉え、作者の心情を考えることができたか。
	7	ICEモデルに当てはめると	☒ Ieas（知識、技能の習得）： 語句の意味、詩の構成と内容、表現技法とその効果、近現代の詩人については充分理解できたか。 ☐ onnections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 古語、明治時代の習俗、三好達治と近しい関係の詩人とその作品について、理解を深めることができたか。 ☐ xtensions（応用、活用）： 作者の心情を読み味わうことができたか。
継続	8	教員のリフレクション	三好達治と詩について、生徒の興味・関心を高めることができたか。
	9	IDモデルに当てはめると？	TOOL4

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」（2015）に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 国語 氏名 _____

授業実施日：令和元年11月1日

視点			記述欄
科目・研修名			国語総合
出入口	1	生徒・受講者	①所属 普通科1年2組 ②人数 41人（男子22人、女子19人） ③特徴・ニーズ 男子を中心に活気はあるが、コツコツが苦手。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 古典文法、古文単語、古典常識 次にどこで使いますか 文章読解全般
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 門出（『土佐日記』） ②C/Eの問い 「紀貫之の思いを読み取ってみよう」 ③方法 ☒ 講義 ☒ 演習 ☒ グループワーク ☐ 実演 ☐ 実習 ④ICT ☐ 実物投影機 ☐ タブレット ☐ _____ ⑤単元計画 (1)「門出」 P82 3行目～P83 3行目（本時） (2)「門出」 P83 4行目～6行目 (3)「帰京」 P84 2行目～6行目 (4)「帰京」 P84 7行目～12行目 (5)「帰京」まとめ P84 13行目～P85 3行目
出口・評価	4	教員の評価の方法	①方法 ☐ 小テスト、 ☒ 定期考査 ☐ レポート ☐ シート提出 ☐ 実技テスト ②ICEに当てはめると？ ☐ ideas（知識・技能の習得）： ・重要古語、文法事項を確認させる ・月の異名、十二支による時刻の表現を確認させる ☐ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： ・重要古語、文法事項を踏まえて訳出させる ☐ extensions（応用、活用）： ・自分の気持ちを正確に表現しやすいのはどのような形か。また自分の思いを書くことで、どのような気持ちになるかを考えさせる。
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★☆☆ きわめる力 ★☆☆ つなげる力 ★★★
生徒の自己評価	6	生徒のリフレクション	他の文章でも同じような発想で応用できるか。
	7	ICEモデルに当てはめると	☐ ideas（知識・技能の習得）： ・重要古語、文法事項、月の異名、十二支による時刻の表現を確認できたか。 ☐ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： ・重要古語や文法事項を踏まえて訳出できたか？ ☐ extensions（応用、活用）： ・自分の気持ちを正確に表現しやすいのはどのような形か。また自分の思いを書くことで、どのような気持ちになるか。
継続	8	教員のリフレクション	今回出てきた知識を含めて、繰り返して、徹底させる。
	9	IDモデルに当てはめると？	Tool4

※日本教育工学会 FD セミナー「大学授業設計の点検ワークシート」（2015）に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 国語 氏名 _____

授業実施日：令和1年11月1日

本時の見せどころは・・・本文を正しく読解し、『史記』の世界観を味わう。

視点			記述欄
科目・研修名			古典
出入口	1	生徒・受講者	① 所属 普通科3年1組 ② 人数 43人（男子 19人、女子 24人） ③ 特徴・ニーズ CEのレベルに興味を持って取り組むことができる。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか ①『史記』「完璧」②漢文句形、重要語彙 ③『史記』全般についての知識 次にどこで使いますか ①漢文問題演習における読解 ②組織論、リーダー論、友情観、職業観などについての考察
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	① 題材『史記』刎頸之交 ② C/Eの問い 組織や友情の在り方、『史記』に込められた思い ③ 方法 ☒ 講義 ☒ 演習 ☒ グループワーク ☐ 実演 ☐ 実習 ④ ICT ☐ 実物投影機 ☒ タブレット ☐ _____ ⑤ 単元計画 (1) 第1段落①～⑫解釈、重要漢字「為」確認 (2) 第2段落①～⑧解釈、「抑揚形」「願望形」重要語彙プリント演習 (3) 第2段落⑨～⑩解釈、「選択形」「比較形」 (4) 第2段落⑪～⑫解釈、反語プリント配布 ★本時 (5) 第2段落⑬～第3段落③解釈、「反語形」「部分否定」 本文から読み取れた内容は何かなど、感想記入。 交換して読み合い、提出。次時紹介。
出口・評価	4	教員の評価の方法	①方法 ☐ 小テスト、 ☒ 定期考査、 ☐ レポート、 ☐ シート提出、 ☐ 実技テスト ②ICEに当てはめると？ ☒ Ileas（知識、技能の習得） 漢文句形、漢文語彙、解釈、 ☒ Connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク） 『史記』における文学史的価値の理解 ☒ Extensions（応用、活用） 『史記』から組織論やリーダー論、友情観や職業観などを読み取る
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★★★★★ ★★★★★ ★★★★★
生徒の自己評価	6	生徒のリフレクション	漢文句形や重要語彙の知識を活用して、本文を正しく解釈できたか。 『史記』の世界観を味わうことができたか。
	7	ICEモデルに当てはめると	☒ Ileas（知識、技能の習得）： 漢文句形、重要語彙についての知識を習得することができたか。 ☒ Connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 文法知識などを活用して正しい内容の解釈につなげることができたか。 ☒ Extensions（応用、活用）： 組織論やリーダー論、友情観や職業観などについて考察することができたか。
継続	8	教員のリフレクション	生徒のこれからの生き方に役立てることができたか。現代文演習で学ぶ文章『歴史と出会い、社会を見いだす』中の、「日本人における、内向きと外向きのことば」とリンクさせることができたか。
	9	IDモデルに当てはめると？	Tool 4

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」（2015）に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 国語 氏名 _____

授業実施日：令和元年11月1日

本時の見せどころは
冒頭の一文から、自分の気持ちを表現しやすい方法
を考える。

視点			記入欄
科目・研修名			国語総合
出入口	1	生徒・受講者	①所属 普通科1年4組 ②人数 41人（男子22人、女子19人） ③特徴・ニーズ 古典分野に対する苦手意識が強い。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 古典文法、古文単語、古典常識 次にどこで使いますか 文章読解全般
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 門出（『土佐日記』） ②C/Eの問い 「紀貫之の思いを読み取ってみよう」 ③方法 ☒ 講義 ☒ 演習 ☒ グループワーク ☐ 実演 ☐ 実習 ④ICT ☐ 実物投影機 ☐ タブレット ☐ _____ ⑤単元計画 (1)「門出」 P82 3行目～P83 3行目（本時） (2)「門出」 P83 4行目～6行目 (3)「帰京」 P84 2行目～6行目 (4)「帰京」 P84 7行目～12行目 (5)「帰京」まとめ P84 13行目～P85 3行目
	4	教員の評価の方法	①方法 ☐ 小テスト、 ☒ 定期考査 ☐ レポート ☐ シート提出 ☐ 実技テスト ②ICEに当てはめると？ ☐ ideas（知識・技能の習得）： ・重要古語、文法事項を確認させる ・月の異名、十二支による時刻の表現を確認させる ☐ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： ・重要古語、文法事項を踏まえて訳出させる ☐ extensions（応用、活用）： ・自分の気持ちを正確に表現しやすいのはどのような形か。また自分の思いを書くことで、どのような気持ちになるかを考えさせる。
出口・評価	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★☆☆ きわめる力 ★☆☆ つなげる力 ★★★
	6	生徒のリフレクション	他の文章でも同じような発想で応用できるか。
生徒の自己評価	7	ICEモデルに当てはめると	☐ ideas（知識・技能の習得）： ・重要古語、文法事項、月の異名、十二支による時刻の表現を確認できたか。 ☐ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： ・重要古語や文法事項を踏まえて訳出できたか？ ☐ extensions（応用、活用）： ・自分の気持ちを正確に表現しやすいのはどのような形か。また自分の思いを書くことで、どのような気持ちになるか。
	8	教員のリフレクション	今回出てきた知識を含めて、繰り返して、徹底させる。
継続	9	IDモデルに当てはめると？	Tool4

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」（2015）に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 国語 氏名

授業実施日：令和1年11月1日

本時の見せどころは・・・

本文を正確に読解し、場面を再現する。

視点			記述欄
科目・研修名			古典
出入口	1	生徒・受講者	① 所属 普通科2年6組 ② 人数 37人（男子15人、女子22人） ③ 特徴・ニーズ 意欲的に授業に取り組む生徒が多い。国語に対する苦手意識を持っている生徒もいる。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 『史記』『鴻門之会』 次にどこで使いますか 次回以降の『史記』の読解
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	① 題材『史記』『鴻門之会』 ② C/Eの問い ③ 方法 ☒ 講義 ☐ 演習 ☒ グループワーク ☐ 実演 ☐ 実習 ④ ICT ☐ 実物投影機 ☐ タブレット ☐ _____ ⑤ 単元計画 (2)「剣の舞」の読解 (3)「樊かい、頭髮上指す」前半の読解（本時） (4)「樊かい、頭髮上指す」後半の読解 その① (5)「樊かい、頭髮上指す」後半の読解 その② (6)「樊かい 頭髮上指す」後半の読解 その③
出口・評価	4	教員の評価の方法	①方法 ☐ 小テスト、 ☒ 定期考査、 ☐ レポート、 ☐ シート提出、 ☐ 実技テスト ②ICEに当てはめると？ ☒ leas（知識、技能の習得）： 『史記』の文学史的知識の習得、理解。基本的語彙の習得。 ☒ onnections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 基本的知識を活用した本文の読解を図る。臨場感あふれる描写から登場人物の心情を読み取る。 ☒ xtensions（応用、活用）： 項王とのやりとりから、当時の社会常識や人間関係の在り方を考える。
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★★★★★ きわめる力 ★★☆☆ つなげる力 ★☆☆
生徒の自己評価	6	生徒のリフレクション	正しく本文を読解し、それを身体表現で表す。
	7	ICEモデルに当てはめると	☒ leas（知識、技能の習得）： 作品や作者、本文を正しく理解したか。 ☒ onnections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 基本的知識を活用して、本文を深く読解できたか。 ☒ xtensions（応用、活用）： 本文の特徴的な表現を味わいながら、正確に場面把握を行うことができたか。
継続	8	教員のリフレクション	本場面を正確に理解させ、表現させることができたか。
	9	IDモデルに当てはめると？	Tool4

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」（2015）に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 国 語 氏名 _____

授業実施日：令和元年11月1日

本時の見せどころは・・・
 古文中の敬語表現を正しく解釈できるか。

視点			記述欄
科目・研修名			古典B
出入口	1	生徒・受講者	①所属 理数科2年S組 ②人数 42人（男子32人、女子10人） ③特徴・ニーズ 発表に消極的だが、グループ活動での発言は多い。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 前回までの古文読解の知識 次にどこで使いますか 次回の古文読解において使用する。
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 紫式部「源氏物語」 ②C/Eの問い 「今、光源氏はどのような状況にありますか。」 ③方法 ☒ 講義 ☒ 演習 ☒ グループワーク ☐ 実演 ☐ 実習 ④ICT ☐ 実物投影機 ☐ タブレット ☐ _____ ⑤単元計画 (1) 本文の音読、大意把握 (2) 内容理解 1/4（本時） (3) 全体のまとめ
出口・評価	4	教員の評価の方法	①方法 ☐ 小テスト、 ☒ 定期考査、 ☒ レポート、 ☐ シート提出、 ☐ 実技テスト ②ICEに当てはめると？ ☐ ideas（知識、技能の習得）： 語彙の習得、本文の構造を理解する。 ☐ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 敬語の知識を用いて、光源氏の置かれている状況を理解する。 ☐ extensions（応用、活用）： 敬語の知識を用いて、光源氏の置かれている状況、これまでの展開を考察する。
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★★☆ きわめる力 ★★☆ つなげる力 ★★☆
生徒の自己評価	6	生徒のリフレクション	グループ活動で、自分の意見を発表する。
	7	ICEモデルに当てはめると	☐ ideas（知識、技能の習得）： 敬語の知識を習得できたか？ ☐ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 本文中の敬語を理解し、現在の場面を考察できたか？ ☐ extensions（応用、活用）： 本文中の敬語を理解し、現在の場面、そして今までの場面を考察できたか？
継続	8	教員のリフレクション	グループで話し合ったことを全体で共有する場を作る。
	9	IDモデルに当てはめると？	TOOL3 メリルのID第一原理 授業設計の原則

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 国語 氏名

授業実施日：令和元年11月1日

本時の見せどころは、ヘレンケラーの資料映像を見て、筆者やハイデガー・ソシュールの言語観を実感させるところ。

視点			記述欄
科目・研修名			現代文 B
出入口	1	生徒・受講者	①所属 普通科2年2組 ②人数 40人（男子20人、女子25人） ③特徴・ニーズ 真面目で熱心に取り組むが、抽象的な概念に苦手意識をもつ生徒もいる。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 具体から抽象、またはその逆の考え方 次にどこで使いますか 2年次教材（現代文・評論文）
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 「ロゴスと言葉」(丸山圭三郎) ②C/Eの問い 「ヘレンケラーのエピソードは何を説明するためのものか？」 ③方法 ☒ 講義 ☒ 演習 ☒ グループワーク ☐ 実演 ☐ 実習 ④ICT ☐ 実物投影機 ☒ タブレット ☒ 電子黒板 ⑤単元計画 (1) 本文音読・全体構成の把握・第1段落読解（プリント使用） (2) 第2段落の読解（プリント使用） (3) 第3段落の読解（プリント使用） (4) 第4段落の読解・ペアワーク・資料映像の提示・教材全体のまとめ（本時）
	4	教員の評価の方法	①方法 ☐ 小テスト、 ☒ 定期考査、 ☐ レポート、 ☐ シート提出、 ☐ 実技テスト ②ICEに当てはめると？ ☒ ideas（知識、技能の習得）： 語句の意味、言語に関する考え方 ☒ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： ハイデガー・ソシュールの言語観 ☒ extensions（応用、活用）： 「言語」や「世界」に関する認識を深める
出口・評価	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★☆☆ ★☆☆ ★☆☆
	6	生徒のリフレクション	筆者やハイデガー、ソシュールらの言語観を理解できたか？
生徒の自己評価	7	ICEモデルに当てはめると	☐ ideas（知識、技能の習得）： 語句の意味、言語に関する考え方を充分理解できたか？ ☒ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： ハイデガー・ソシュールの言語観を理解できたか？ ☒ extensions（応用、活用）： 「言語」や「世界」に関する認識について理解できたか？
	8	教員のリフレクション	ソシュールの言語観を踏まえた言語認識・世界認識
継続	9	IDモデルに当てはめると？	TOOL4

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 公民 氏名 _____

授業実施日：令和元年11月1日

本時の見せどころは・・・

生徒が元気に発表する様子。

視点			記述欄
科目・研修名			現代社会
出入口	1	生徒・受講者	① 所属 普通科1年7組 ② 人数 41人（男子22人、女子19人） ③ 特徴・ニーズ 全体的に明るい雰囲気のあるクラス
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 夏休みの研究レポートとパワーポイント 次にどこで使いますか 授業を通して、広く研究活動方法や学習のあり方を習得することで、現代社会の諸問題に高い関心を持たせ、考える力を育成する。
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	① 題材 生徒による自由研究の発表 ② C/Eの問い 「もし、あなたが発表者だったらどう考えるか？」 ③ 方法 □講義 □演習 ■グループワーク □実演 □実習 ④ ICT □実物投影機 ■タブレット □_____ ⑤ 単元計画 (1) 研究レポート作成（個人別）（夏休み） (2) パワーポイント作成 (3) 発表（本時） (4) アンケート
	4	教員の評価の方法	① 方法 □小テスト、□定期考査、■レポート、■シート提出、□実技テスト ② ICEに当てはめると？ □ideas（知識、技能の習得）： テーマについての関心と理解、コミュニケーション能力 □connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 他教科・科目（情報、地歴、理科、国語など） □extensions（応用、活用）： 問題意識を持って、自分なりの答えを見つけ、次の課題につなげる。
出口・評価	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★★★ きわめる力 ★★☆ つなげる力 ★★★
	6	生徒のリフレクション	ループリック評価表で振り返る。
生徒の自己評価	7	ICEモデルに当てはめると	□ideas（知識、技能の習得）： レポートや定期試験の結果 □connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 情報リテラシーの実践と教科「情報」との連携 □extensions（応用、活用）： 社会の一員としての自覚、社会とのつながりや課題を考える。
	8	教員のリフレクション	生徒のアンケート（自己評価表及び授業評価）の機会を作る。
継続	9	IDモデルに当てはめると？	TOOL3 メリルのID第一原理 授業の設計の原理

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 世界史A ____氏名____

授業実施日：R元年11月 8日

本時の見せどころは・・・列強の協力によるウィーン体制が目指した反動性と、それに対抗する諸地域におけるナショナリズムや自由主義の運動を考察させる。

視点			記入欄
科目・研修名			世界史A・地歴公民部会 研究発表
出入口	1	生徒・受講者	① 所属 普通科2年4組 ② 人数 38人（男子27人、女子11人） ③ 特徴・ニーズ 男女ともに明るく、特に男子は発問に対しての発言が多いので授業が盛り上がる。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか フランス革命・ナポレオン・ウィーン体制 次にどこで使いますか ウィーン体制の崩壊・自由主義
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	① 題材 1848年革命 ② C/Eの問い 「諸国民の春」という用語の意味を考える。 ③ 方法 ☒ 講義 ☐ 演習 ☐ グループワーク ☐ 実演 ☐ 実習 ④ ICT ☐ 実物投影機 ☒ タブレット ☒ タブレット ⑤ 単元計画 (1)・・・ウィーン会議 (2)・・・ウィーン体制の動揺と七月革命 (3)・・・社会主義思想の成立 (4)・・・1848年革命（本時）
出口・評価	4	教員の評価の方法	①方法 ☐ 小テスト、 ☒ 定期考査、 ☐ レポート、 ☐ シート提出、 ☐ 実技テスト (○○○・・・具体的な特徴があれば記述する) ②ICEに当てはめると？ ☐ ideas（知識、技能の習得）： 革命の起きた場所と人物名を理解できたか ☐ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 革命がその後の国際関係にどのような変化を与えたか。 ☐ extensions（応用、活用）： 新国家の成立にどのような影響を与えたかを理解する。
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★★★★☆ ★★☆☆ ★★★★★
生徒の自己評価	6	生徒のリフレクション	ウィーン会議からウィーン体制崩壊までの流れをつかむことが出来たか。
	7	ICEモデルに当てはめると	☐ ideas（知識、技能の習得）： 年表にそって事象を覚えることが出来たかできたか？ ☐ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 革命が起きるまでの流れと要因を理解できたか？ ☐ extensions（応用、活用）： ウィーン体制崩壊がヨーロッパの再編とつながることができたか？
継続	8	教員のリフレクション	ウィーン体制の崩壊により、ヨーロッパがどのように再編されましたか？
	9	IDモデルに当てはめると？	TOOL4

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 地理 氏名 _____

授業実施日：令和元年11月 1日

視点			記述欄
科目・研修名			地理B
出入口	1	生徒・受講者	①所属 普通科3年1・2組 ②人数 24人（男子10人、女子14人） ③特徴・ニーズ 質問に対して活発に担げん
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 世界の言語、宗教、民族分布。 次にどこで使いますか 世界各国の地誌学習。
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 世界の民族紛争 ②C/Eの問い なぜ民族紛争が発生するのか。 ③方法 ☐ 講義 ☐ 演習 ☒ グループワーク ☐ 実演 ☐ 実習 ④ICT ☐ 実物投影機 ☒ タブレット ☐ _____ 民族分布の投影 ⑤単元計画 (1)生活文化 (2)人種と民族 (3)言語 (4)宗教 (5)民族問題
	4	教員の評価の方法	①方法 ☒ 小テスト、 ☒ 定期考査、 ☐ レポート、 ☐ シート提出、 ☐ 実技テスト (○○○・・・＜具体的な特徴があれば記述する＞) ②ICEに当てはめると？ ☐ ideas（知識、技能の習得）： 教科書の理解 ☐ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 言語、宗教を併せて考える。世界史学習と関連させる。 ☐ extensions（応用、活用）： 現代世界の紛争や暴動について知る。
出口・評価	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ☆☆☆ ☆☆☆ ★★★★★
	6	生徒のリフレクション	小テスト、考査等で定着させる。
生徒の自己評価	7	ICEモデルに当てはめると	☐ ideas（知識、技能の習得）： 教科書・地図帳・資料集で民族紛争について理解できたか？ ☐ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 既習の内容と繋げて考えることができたか。 ☐ extensions（応用、活用）： 現代世界で起きていることに目を向けることができたか。
	8	教員のリフレクション	
継続	9	IDモデルに当てはめると？	○○○・・・

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 地理歴史（日本史） 氏名

授業実施日：令和元年11月1日

視点			記述欄
科目・研修名			日本史A
出入口	1	生徒・受講者	①所属 2年理数科・美術科 ②人数 31人 ③特徴・ニーズ 歴史事象を学ぶことで、現代社会の成り立ちを多面的に考察しようとしている。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 19世紀末の中国分割と朝鮮半島情勢 次にどこで使いますか 日露戦争後の国内政治と韓国併合の授業につながります。
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	① 題材 「日露戦争」 ② C/Eの問い 日露戦争はどのようにして起きたのか？ ③ 方法 □講義 □演習 ■グループワーク □実演 □実習 ④ ICT □実物投影機 ■タブレット ■プロジェクター 歴史資料の提示 ⑤単元計画 (1) 中国分割 (2) 日露戦争（本時） (3) 日露戦争後の国際関係 (4) 日本の植民地支配
出口・評価	4	教員の評価の方法	①方法 □小テスト、■定期考査、□レポート、■シート提出、□実技テスト (振り返り(文章)のリフレクションシートによる評価) ②ICEに当てはめると？ □ideas (知識、技能の習得) : 教科書内容の確認 □connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク) : 資料を読んで解釈する。日本国内の情勢や、関係国のねらいを考察する。 □extensions (応用、活用) : 今日において、国際社会の一員としての日本のあり方を考察できる。
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★☆☆ ★☆☆ ★★☆☆
生徒の自己評価	6	生徒のリフレクション	事後アンケートにおいて、「文章」で振り返る
	7	ICEモデルに当てはめると	□ideas (知識、技能の習得) : 教科書を読んで当時の国際関係、国内状況を把握できたか？ □connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク) : 資料を読んで、関係国のねらいや、国内世論の形成を具体的に考察することができたか？ □extensions (応用、活用) : 現代の国際社会と日本の関係を考察することができたか？
継続	8	教員のリフレクション	紙面発表の機会を作る。 相互評価の機会を作る。
	9	IDモデルに当てはめると？	TOOL4学習プロセスを助ける作戦

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 数学 氏名 _____

授業実施日：令和1年11月1日

本時の見せどころは・・・

常用対数を日常生活で使うことのメリットを考えると
ころです。

視点			記入欄
科目・研修名			数学Ⅱ
出入口	1	生徒・受講者	① 所属 普通科文系 2年1組 ② 人数 45人（男子20人、女子25人） ③ 特徴・ニーズ 数学を苦手とする生徒が多いが、全員で考えようとする雰囲気がある。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 数学Ⅱ・・・対数関数の基本的な定義や公式 次にどこで使いますか 地学や化学などの理科の授業、入試問題、将来
方法・内容			①題材 指数関数・対数関数 「常用対数」 ②C/Eの問い 「常用対数を日常生活で使うことのメリットは？」 ③方法 ■講義 ■演習 ■グループワーク □実演 □実習 ④ICT □実物投影機 ■タブレット □ ⑤単元計画 使用教材：ニューパワーオン 数学ⅠAⅡB 単元計画：指数対数・対数関数（4/4時間）本時
出口・評価	4	教員の評価の方法	①方法 □小テスト、■定期考査、□レポート、□シート提出、□実技テスト ②ICEに当てはめると？ □ideas（知識・技能の習得）： 常用対数を用いて、熊本地震のマグニチュードの桁数を求めることができる。 □connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 常用対数を用いて、マグニチュードの増加と地震のエネルギーの関係を考察することができる。 □extensions（応用、活用）： 常用対数を日常生活で使うことのメリットを考察することができる。
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★★★★ ★★☆☆ ★★☆☆
生徒の自己評価	6	生徒のリフレクション	常用対数を日常生活で使うことのメリットを考察することができたか？
	7	ICEモデルに当てはめると	□ideas（知識・技能の習得）： 常用対数を用いて、熊本地震のマグニチュードの桁数を求めることができたか？ □connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 常用対数を用いて、マグニチュードの増加と地震のエネルギーの関係を考察することができたか？ □extensions（応用、活用）： 常用対数を日常生活で使うことのメリットを考察することができたか？
継続	8	教員のリフレクション	常用対数を日常生活で使うことのメリットを、生徒同士で説明することができたか？
	9	IDモデルに当てはめると？	TOOL3 メリルのID第一原理「活性化」「例示」「応用」 TOOL4 ガニエの9教授事象

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」（2015）に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 数学 氏名 _____

本時の見せどころは・・・班活動・実物投影機・模型

授業実施日：令和 1 年 1 月 1 日

視点			記述欄
科目・研修名			数学A 二つの円の位置関係と三角形の成立条件
出入口	1	生徒・受講者	① 所属 普通科1年6組 ② 人数 41人（男子22人、女子19人） ③ 特徴・ニーズ 素直な41人、学習意欲はあるが、学力はこれから
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 共有の意味、接することの意味、三角形の形状 次にどこで使いますか 大学入試でも出題されたことがある問題である
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	① 題材 図形の性質「2つの円」 ② C/Eの問い 「2つの円の位置関係は？三角形の成立条件は？」 ③ 方法 speed ■講義 □演習 ■グループワーク □実演 □実習 ④ ICT ■実物投影機 □タブレット □ _____ 班活動により、模型を使って考えさせ、それを実物投影機で発表させる。 ⑤ 単元計画 (1) 三角形の内角の二等分線の性質 (2) 三角形の五心 (3) チェバ・メネラウスの定理 (4) 円の性質 (5) 2つの円（本時）
出口・評価	4	教員の評価の方法	①方法 □小テスト、■定期考査、□レポート、□シート提出、□実技テスト ②ICEに当てはめると？ □ideas（知識、技能の習得）： 模型を使って2つの円の交点を見つけられるか。 □connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 2つの円の交点と三角形の関係を考察できるか。 □extensions（応用、活用）： 三角形の成立するための必要十分条件を導き出せるか。
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★☆☆ ★★★★★ ★★★★★
生徒の自己評価	6	生徒のリフレクション	班活動の中でしっかりと話し合いに参加できたか。
	7	ICEモデルに当てはめると	□ideas（知識、技能の習得）： 模型を使って様々な位置関係を考察できたか？ □connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 2つの円の交点と円の中心を結んだときの図形を考察できたか？ □extensions（応用、活用）： 三角形の成立条件を導き出すことができたか？
継続	8	教員のリフレクション	三角形の成立条件を通して、必要十分の考え方を再確認させる
	9	IDモデルに当てはめると？	TOOL3 メリルのID第一原理「活性化」「例示」「応用」 TOOL4 ガニエの9教授事象

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」（2015）に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 数学 氏名 _____

授業実施日：令和1年11月1日

本時の見せどころは・・・

生徒たちが協力しながら、難しい入試問題に挑んでいく雄姿。

視点			記入欄
科目・研修名			数学特論
出入口	1	生徒・受講者	① 所属 理数科 3年S組 ② 人数 40人（男子32人、女子8人） ③ 特徴・ニーズ 入試に向けて意欲的に問題に取り組むクラス。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 数学Ⅱ・・・底の変換公式、極値の考え方 次にどこで使いますか 大学入試本番
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 問題演習3問（対数、微分①、微分②） ②C/Eの問い 「これと似たような問題を解いたことはないか？」 ③方法 ■講義 ■演習 ■グループワーク □実演 □実習 ④ICT □実物投影機 □タブレット □ ⑤単元計画 1時間に2～3問ずつ入試問題を解き、2次力を高める。
出口・評価	4	教員の評価の方法	①方法 □小テスト、■定期考査、□レポート、□シート提出、□実技テスト ②ICEに当てはめると？ □ideas（知識、技能の習得）： （1）の問題を解くことができる。 □connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： （1）で求めたことを活かし、（2）を解くことができる。 □extensions（応用、活用）： 他の入試問題に応用することができる。
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★★★ きわめる力 ★★★ つなげる力 ★★★
生徒の自己評価	6	生徒のリフレクション	問題を解く方針を簡潔に隣の人に説明できるか？
	7	ICEモデルに当てはめると	□ideas（知識、技能の習得）： （1）の問題を解くことができたか？ □connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： （1）と（2）のつながりに気づくことができたか？ □extensions（応用、活用）： 似たような解法で解いた問題はこれまでになかったか？
継続	8	教員のリフレクション	問題の解く手順を生徒同士で説明することができたか？
	9	IDモデルに当てはめると？	TOOL3 メリルのID第一原理「活性化」「例示」「応用」 TOOL4 ガニエの9教授事象

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」（2015）に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 数学 氏名 _____

授業実施日：令和1年11月1日

本時の見せどころは・・・

生徒たちが協力しながら、難しい入試問題に挑戦していく雄姿。

視点			記述欄
科目・研修名			数学特論
出入口	1	生徒・受講者	① 所属 普通科 3年78組 ② 人数 17人（男子10人、女子7人） ③ 特徴・ニーズ 入試に向けて意欲的に問題に取り組むクラス。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 数学Ⅲ・・・積分の計算 次にどこで使いますか 大学入試本番
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 問題演習1問（媒介変数で表示された曲線の長さ） ②C/Eの問い 「これと似たような問題を解いたことはないか？」 ③方法 ■講義 ■演習 ■グループワーク □実演 □実習 ④ICT □実物投影機 □タブレット □ ⑤単元計画 1時間に1問ずつ入試問題を解き、2次力を高める。
出口・評価	4	教員の評価の方法	①方法 □小テスト、■定期考査、□レポート、□シート提出、□実技テスト ②ICEに当てはめると？ □ideas（知識、技能の習得）： （1）の問題を解くことができる。 □connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： （1）で求めたことを活かし、（2）を解くことができる。 □extensions（応用、活用）： 他の入試問題に応用することができる。
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★★★★ ★★★★★ ★★★★★
生徒の自己評価	6	生徒のリフレクション	問題を解く方針を簡潔に隣の人に説明できるか？
	7	ICEモデルに当てはめると	□ideas（知識、技能の習得）： （1）の問題を解くことができたか？ □connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： （1）と（2）のつながりに気づくことができたか？ □extensions（応用、活用）： 似たような解法で解いた問題はこれまでになかったか？
継続	8	教員のリフレクション	問題の解く手順を生徒同士で説明することができたか？
	9	IDモデルに当てはめると？	TOOL3 メリルのID第一原理「活性化」「例示」「応用」 TOOL4 ガニエの9教授事象

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」（2015）に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 数学 氏名 _____

授業実施日：令和元年11月 1日

本時の見せどころは、 ∞ での極限と関連付けることで
 $-\infty$ での極限を求めるところです。

視点			記述欄
科目・研修名			数学Ⅱ
出入口	1	生徒・受講者	① 所属 普通科2年8組 ② 人数 37人（男子13人、女子24人） ③ 特徴・ニーズ 数学を苦手とする生徒が多い
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか ∞ での関数の極限の求め方 次にどこで使いますか 指数関数や対数関数、三角関数などの様々な関数
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	① 題材 関数の極限 ② C/Eの問い 「 ∞ での極限と $-\infty$ での極限の違いは？」 ③ 方法 ■講義 ■演習 ■グループワーク □実演 □実習 ④ ICT □実物投影機 □タブレット □ ⑤ 単元計画 第4章極限 第2節関数の極限 (1) 関数の極限(1) (2) 関数の極限(2)(本時) (3) 三角関数と極限 (4) 関数の連続性
出口・評価	4	教員の評価の方法	①方法 □小テスト、■定期考査、□レポート、□シート提出、□実技テスト ②ICEに当てはめると？ □ideas（知識、技能の習得）： $-\infty$ での極限を求めることができる □connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： ∞ での極限と関連付けて考えることができる □extensions（応用、活用）： 無理関数において、変数を置き換えることにより $-\infty$ での極限を 求めることができる
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★★☆☆ ★★★★★ ★★☆☆
生徒の自己評価	6	生徒のリフレクション	$-\infty$ での極限をもとめることができた。
	7	ICEモデルに当てはめると	□ideas（知識、技能の習得）： $-\infty$ での極限を求めることができたか？ □connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： ∞ での極限と関連付けて考えることができたか？ □extensions（応用、活用）： 無理関数において、変数を置き換えることにより $-\infty$ での極限を 求めることができたか？
継続	8	教員のリフレクション	指数関数や対数関数、三角関数における極限につなげる
	9	IDモデルに当てはめると？	TOOL3「活性化」 ∞ での極限に関する知識を動員する TOOL4「情報提示」 $-\infty$ での極限を求めることを目標とする

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 数学 氏名 _____

授業実施日：令和元年10月25日

視点			記述欄
科目・研修名			数学Ⅲ
出入口	1	生徒・受講者	① 所属 普通科理系 3年7組 数学Ⅲ選択生徒 ② 人数 36人（男子26人、女子10人） ③ 特徴・ニーズ 個別試験にも数学を要する生徒が多い。 学力差が大きい。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 問題演習のため、各項目の基本的な内容の理解 粘り強く考える姿勢 次にどこで使いますか より難度の高い問題演習 入学試験
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	① 題材 プラスノート 数学Ⅲ 問題演習 ② C/Eの問い 限られた数学の世界で忍耐強く考えると、実社会の複雑な条件下で考えることができる。 ③ 方法 ☒ 講義 ☐ 演習 ☒ グループワーク ☐ 実演 ☐ 実習 ④ ICT ☒ 実物投影機 ☒ タブレット ☐ _____ 解答例と考え方などをPDFで提示準備 ⑤ 単元計画 (1) プラスノート 数学Ⅲ 各節の右上の問題(9) (2) 右下の問題(9) 本時はその6時間目 (3) 左ページの問題(12)
出口・評価	4	教員の評価の方法	①方法 ☐ 小テスト、 ☒ 定期考査、 ☐ レポート、 ☐ シート提出、 ☐ 実技テスト ②ICEに当てはめると？ ☐ ideas（知識、技能の習得）： 問題の意味が理解でき、自分で解決しようとする。 ☐ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 知識を整理し、活用しようとする ☐ extensions（応用、活用）： より難度が高い問題に活用できる
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★★★ きわめる力 ★★☆ つなげる力 ★★☆
生徒の自己評価	6	生徒のリフレクション	個別対策のレベルのため予習段階で解決する生徒は少ないが、深く考えようとする姿勢は育っている。
	7	ICEモデルに当てはめると	☐ ideas（知識、技能の習得）： 問題が理解でき、既習事項との関連に気が付いたか？ ☐ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 知識を整理し活用できたか？ ☐ extensions（応用、活用）： 問題が理解でき応用的な問題を自ら解こうとできたか？
継続	8	教員のリフレクション	考え方を伝えるようにできたか？生徒がさらに学ぼうとしたか？ 教えすぎではなかったか？
	9	IDモデルに当てはめると？	TOOL3 メリルのID第1原理「活性化」「例示」「統合」

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 数学 氏名 _____

授業実施日：令和1年11月1日

本時の見せどころは・・・

図形の面積を利用して自ら不等式を立式し、極限を求めるところです。

視点			記述欄
科目・研修名			数学Ⅲ
出入口	1	生徒・受講者	① 所属 普通科理系 2年7組 ② 人数 37人（男子14人、女子23人） ③ 特徴・ニーズ 理系クラスであるが、数学を苦手とする生徒が多い。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 数学Ⅱ・・・三角関数のグラフ 数学Ⅲ・・・数列の極限、関数の極限 「はさみうちの原理」 次にどこで使いますか 図形に関連した極限、三角関数の微分
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 三角関数の極限「 $\sin x/x$ の極限」 ②C/Eの問い 「この極限が“1”に収束する根拠は？」 ③方法 ■講義 ■演習 ■グループワーク □実演 □実習 ④ICT □実物投影機 ■タブレット □ ⑤単元計画 (1) 関数の極限 (1) (2時間) (2) 関数の極限 (2) (2時間) (3) 三角関数と極限 (1/2時間) 本時 (4) 関数の連続性 (2時間) (5) 問題演習 (4時間)
出口・評価	4	教員の評価の方法	①方法 □小テスト、■定期考査、□レポート、□シート提出、□実技テスト ②ICEに当てはめると？ □ideas (知識、技能の習得)： グラフを利用した三角関数の極限を求めることができる。 □connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク)： はさみうちの原理を利用することができる。 □extensions (応用、活用)： 図形を利用して自ら不等式を立式し、極限を求めることができる。
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★★☆ ★★☆☆ ★★★★★
生徒の自己評価	6	生徒のリフレクション	$\sin x/x$ の極限の証明について理解することができたか？
	7	ICEモデルに当てはめると	□ideas (知識、技能の習得)： グラフを利用した三角関数の極限を求めることができたか？ □connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク)： はさみうちの原理を利用することができたか？ □extensions (応用、活用)： 図形を利用して自ら不等式を立式し、極限を求めることができたか？
継続	8	教員のリフレクション	$\sin 2x/x$ の極限の計算の根拠を、生徒同士で説明することができたか？
	9	IDモデルに当てはめると？	TOOL3 メリルのID第一原理「活性化」「例示」「応用」 TOOL4 ガニエの9教授事象

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 数学 氏名

授業実施日：令和1年11月1日

本時の見せどころは・・・

入試問題も難問ではないように感じさせるところ

視点			記述欄
科目・研修名			数学Ⅲ
出入口	1	生徒・受講者	① 所属 普通科 3年4・5・6組（展開授業） ② 人数 35人（女子35人） ③ 特徴・ニーズ 数学に多少の苦手意識はあるものの意欲的に問題に取り組むクラス。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 数学Ⅱ・・・接線の方程式、関数の増減、極値 次にどこで使いますか 大学入試本番
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 問題演習3問（微分） ②C/Eの問い 「問題を見たときにどんな解法を候補に挙げたか？」 ③方法 ■講義 ■演習 □グループワーク □実演 □実習 ④ICT □実物投影機 □タブレット □ ⑤単元計画 1時間に2～3問ずつ入試問題を解き、2次力を高める。
出口・評価	4	教員の評価の方法	①方法 □小テスト、■定期考査、□レポート、□シート提出、□実技テスト ②ICEに当てはめると？ □ideas（知識、技能の習得）： （1）の問題を解くことができる。 □connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： （1）で求めたことを活かし、（2）を解くことができる。 □extensions（応用、活用）： 他の入試問題に応用することができる。
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★★★★ きわめる力 ★★★★ つなげる力 ★★★★
生徒の自己評価	6	生徒のリフレクション	問題を解く方針を簡潔に発表できるか？
	7	ICEモデルに当てはめると	□ideas（知識、技能の習得）： （1）の問題を解くことができたか？ □connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： （1）と（2）のつながりに気づくことができたか？ □extensions（応用、活用）： 似たような解法で解いた問題はこれまでになかったか？
継続	8	教員のリフレクション	既習の知識を使ってより難度の高い問題に挑戦できたか？
	9	IDモデルに当てはめると？	TOOL3 メリルのID第一原理「活性化」「例示」「応用」 TOOL4 ガニエの9教授事象

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」（2015）に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 数学 氏名 _____

授業実施日：令和元年 7 月 8 日

本時の見せどころは・・・

(2次) 不等式を解くことと、関数のグラフの上下関係を関連付けて考えさせるところです。

視点			記述欄
科目・研修名			数学 I
出入口	1	生徒・受講者	①所属 普通科 1 年 3 組 ②人数 42 人 (男子 23 人、女子 19 人) ③特徴・ニーズ 授業態度は活発であるが、やや落ち着きに欠ける生徒もいる。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 「不等式を解く」ことの定義、「関数のグラフ」の定義。 方程式の解とグラフと x 軸との共有点の x 座標が一致すること。 次にどこで使いますか 2 次関数全般
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/E の問い、指導方法、展開)	①題材 2 次不等式の導入 ②C/E の問い 『不等式を解く』ことと『グラフ』の関連は？ ③方法 ■講義 ■演習 □グループワーク □実演 □実習 ④ICT □実物投影機 ■タブレット ■パワーポイント ⑤単元計画 第 3 節 2 次方程式と 2 次不等式 (5) 2 次方程式 1 (6) 2 次関数のグラフと x 軸の位置関係 1 (7) 2 次不等式 1 / 3 (本時)
	4	教員の評価の方法	①方法 □小テスト、■定期考査、□レポート、□シート提出、□実技テスト ②ICE に当てはめると？ □ideas (知識、技能の習得) : 2 次不等式とグラフの関係を知る。答案の書き方に習熟する。 □connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク) : 方程式の解とグラフと x 軸との共有点との関連に結び付ける。 □extensions (応用、活用) : 3 次不等式や「 > 0 」以外の不等式を解くことができる。
出口・評価	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★★★ きわめる力 ★★★ つなげる力 ★★★
	6	生徒のリフレクション	不等式の解とグラフと x 軸との位置関係について考えることができた。
生徒の自己評価	7	ICE モデルに当てはめると	□ideas (知識、技能の習得) : 2 次不等式の解を答えることができたか？ □connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク) : 方程式の解とグラフと x 軸との共有点の関連付けることができたか？ □extensions (応用、活用) : 「 > 0 」以外の不等式も考えることができたか？
	8	教員のリフレクション	詳細な解答 (解法) については次時に譲り、考え方を身に付ける
継続	9	ID モデルに当てはめると？	TOOL 3 「活性化」 2 次関数グラフに関する知識を動員する TOOL 4 「導入」 (2 次) 不等式をグラフを用いて解くことを目標とする

※日本教育工学会 FD セミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015) に、ID モデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 数学 氏名 _____

授業実施日：令和元年11月1日

本時の見せどころは・・・

とにかく面積の公式を使う！！

視点			記述欄
科目・研修名			数学Ⅱ
出入口	1	生徒・受講者	①所属 普通科3年7・8組 ②人数 14人（男子9人、女子5人） ③特徴・ニーズ 数学を苦手になっている生徒が多い。 基本的なことからきちんと定着させたいという意識が高い。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 定積分の計算、グラフの共有点と方程式の実数解の個数の関係 次にどこで使いますか 定積分を用いた面積の計算
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 キートレーニング数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B、ワークシート ②C/Eの問い 「面積を求めるために必要なことは？」 ③方法 ☒ 講義 ☒ 演習 ☐ グループワーク ☐ 実演 ☐ 実習 ④ICT ☐ 実物投影機 ☐ タブレット ☐ _____ ⑤単元計画 (1) 36不定積分・定積分 (2) 37面積(1) (3) 38面積(2)(本時)
	4	教員の評価の方法	①方法 ☐ 小テスト、 ☐ 定期考査、 ☐ レポート、 ☒ シート提出、 ☐ 実技テスト (授業で使ったワークシートで定着度を確認する。) ②ICEに当てはめると？ ☐ ideas(知識・技能の習得)： 定積分できるか。 ☐ connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)： グラフの位置関係を定積分の計算に活かせるか。 ☐ extensions(応用、活用)：
出口・評価	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★☆☆ ★★★★★ ★☆☆
	6	生徒のリフレクション	面積の公式をとにかく使ってみる。
生徒の自己評価	7	ICEモデルに当てはめると	☒ ideas(知識・技能の習得)： 定積分の計算ができたか？ ☒ connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 面積の公式を使って計算できたか？ ☐ extensions(応用、活用)：
	8	教員のリフレクション	自分の考えを説明させたり、板書させたりして、理解度を確認する。
継続	9	IDモデルに当てはめると？	TOOL4 学習プロセスを助ける作戦(ガニエの9教授事象)⑤これまでの知識と関連させる ⑥練習の機会をつくる ⑨長持ちさせ応用がきくようにする

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 化学 氏名 _____

授業実施日：令和元年 11 月 1 日

本時の見せどころは・・・つなげる力
身近にある合成繊維を素材に考える授業です。

視点			記述欄
科目・研修名			化学
出入口	1	生徒・受講者	①所属 普通科理系 3年4組 ②人数 39人（男子21人、女子18人） ③特徴・ニーズ 授業での学習内容が日常生活にある様々な物質の特性と構造を知り身の回りの物質に対して興味・関心をもつようになる。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか アルケン・アルキンの付加反応、官能基の性質 次にどこで使いますか 合成樹脂の機能と分子構造の関連の理解。
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 合成高分子化合物 ポリアミド系合成繊維 ②C/Eの問い 「絹の代用品であるナイロンと絹との共通しているものは？」 ③方法 ■講義 □演習 □グループワーク □実演 □実験 ④ICT ■実物投影機 ■タブレット □ 演示実験 ⑤単元計画 (7)時間 (1) 合成繊維 (2) (2時間目：本時) (2) 合成樹脂 (2) (3) 高分子化合物と人間生活 (1) (4) 天然ゴムと合成ゴム (2)
出口・評価	4	教員の評価の方法	①方法 □小テスト、□定期考査、□レポート、■シート提出、□実技テスト ②ICEに当てはめると？ □ideas (知識、技能の習得)： 身近にある合成繊維を持ってくる。また、その合成繊維が何でできているのか、品質表示を確認する。 □connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 化学結合によってどのような繊維の特性が得られるか説明できる。 □extensions (応用、活用)： 合成繊維と天然繊維との構造を比較し、類似点、相違点を知り、用途に応じて使い分けることができるようになる。
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★★☆ きわめる力 ☆☆☆ つなげる力 ★★★
生徒の自己評価	6	生徒のリフレクション	市販されている合成繊維の構造と化学結合と特性を発表し、その説明の根拠に妥当性があるか検討する。
	7	ICEモデルに当てはめると	□ideas (知識、技能の習得)： 身近にある合成繊維を持ってくる。また、その合成繊維が何でできているのか、品質表示を確認その合成繊維が何か、用途を知ることができたか？ □connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 化学結合によってどのような繊維の特性が得られるか説明できたか？ □extensions (応用、活用)： 合成繊維と天然繊維との構造を比較し、類似点、相違点を知り、用途に応じて使い分けることができるようになったか？
継続	8	教員のリフレクション	日常の様々な場面でどのような合成繊維を用いるか、提案の自己評価をどのような根拠で行うのか検討。
	9	IDモデルに当てはめると？	ARCSモデルのRelevanceを意識して授業を行います。

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 探究 氏名 _____

授業実施日：令和元年11月 1日

本時の見せどころは・・・

生徒が立てた仮説が自身が行った実験結果から立証できているか、ディスカッションで検討するところです。

視点			記述欄
科目・研修名			スーパーサイエンスⅠ・化学探究（二高ロウソクの科学）
出入口	1	生徒・受講者	①所属 理数科1年S組 ②人数 42人（男子32人、女子10人） ③特徴・ニーズ 「きわめる力」科学的探究能力を身に付けること。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか アセチレンと空気混合燃焼実験で、炎の輝きと燃焼の様子（ススの発生）が関与していること。 次にどこで使いますか ロウソクの輝きの仕組みについての考察
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法（C/Eの問い、指導方法、展開）	①題材 ロウソクの輝きのしくみを実験結果を根拠に説明する。 ②C/Eの問い 「ロウソクの炎はどのような仕組みで輝いているの？」 ③方法 □講義 □演習 ■グループワーク □実演 ■実験 ④ICT ■実物投影機 □タブレット □ ⑤単元計画 （1）元素の周期表、化学反応式のしくみ （2）アセチレンと空気混合燃焼実験とその考察 （3）ロウソクの炎の観察、仮説設定のための実験 （4）ロウソクの輝きの仕組みについて仮説を立て実験を根拠に説明し、クラス全員でディスカッション（本時） （5）ディスカッションをもとに再度実験を行い、ロウソクの輝く仕組みをレポートにまとめる。
出口・評価	4	教員の評価の方法	①方法 □小テスト、□定期考査、■レポート、□シート提出、□実技テスト ■実験（与えられた実験器具で行う） ②ICEに当てはめると？ □ideas（知識、技能の習得）： 実験の結果のみを述べている。自分の仮説が述べられている。 □connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 実験結果をもとに考察している。スス（輝きの核になるもの）の存在に気づき、班で実験した内容をもとに考察している。 □extensions（応用、活用）： 内炎の輝きが内炎に存在するススの存在に由来し、自身で考案した実験、アセチレンの燃焼実験、またはガスバーナーの炎等を根拠に考察している。
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★★☆ きわめる力 ★★★ つなげる力 ★★☆
生徒の自己評価	6	生徒のリフレクション	グループ活動で自分の仮説、実験内容、結果を発表し、質疑により仮説立証能力を深める。
	7	ICEモデルに当てはめると	□ideas（知識、技能の習得）： 実験の結果、自分の仮説が述べられているか？ □connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 実験結果をもとに仮説が考察できているか？ □extensions（応用、活用）： 内炎に存在するススの存在に気づき、自身が考案した実験とその結果をもとに炎の輝きの仕組みを説明できたか？
継続	8	教員のリフレクション	ディスカッションでなされた質問内容、その応答、レポートによる検証
	9	IDモデルに当てはめると？	メリルのID第一原理 活性化：既に知っている知識を動員する。応用：応用するチャンスがある。

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」（2015）に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 化学 氏名 _____

授業実施日：令和元年 11 月 1 日

本時の見せどころは、企業の最先端取組と学校の学びを結びつける。

視点			記述欄
科目・研修名			化学
出入口	1	生徒・受講者	①所属 普通科理系 3年5組 ②人数 39人（男子19人、女子20人） ③特徴・ニーズ 学力の幅が大きい集団である。問題演習には積極的に取り組むことができる一方、講義形式の授業になると受け身である。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 化学平衡 次にどこで使いますか アミノ酸の滴定曲線。イオン交換樹脂によるアミノ酸の分離。
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 タンパク質「アミノ酸の等電点を求めよう。」 ②C/Eの問い 「アミノ酸の等電点が高いということは何か？ 小さいということは何か？」 「アミノ酸を分離することは、どんな役に立っているのか」 ③方法 ■講義 □演習 □グループワーク □実演 ■実験 ④ICT □実物投影機 ■タブレット ■演示実験 ⑤単元計画 (9)時間 (1)糖 (4) (2)タンパク質 (4)(本時は2時間目) (3)核酸 (1)
	4	教員の評価の方法	①方法 □小テスト、■定期考査、□レポート、□シート提出、□実技テスト ②ICEに当てはめると？ □ideas (知識、技能の習得)： α-アミノ酸の代表例を知る。等電点の意味を理解する。 □connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 等電点について平衡を絡めて理解する。酸性下、塩基性下での平衡の移動について考えることができる。pHとの関係についても理解する。 □extensions (応用、活用)： 等電点が高いこと、小さいことが何を意味するかが分かる。 アミノ酸の分離がどんなところで有用なのかを考える。
出口・評価	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★★☆ きわめる力 ★★☆ つなげる力 ★★★
	6	生徒のリフレクション	既習事項と関連させることにより、新たな知識を獲得する。
生徒の自己評価	7	ICEモデルに当てはめると	□ideas (知識、技能の習得)： α-アミノ酸の代表例を覚えたか。 等電点という言葉の説明できるか。 □connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 化学平衡を念頭におき、等電点を求めることができたか。 □extensions (応用、活用)： 等電点が高い、小さいということは何を意味するか、自らの言葉で表現できるか？ アミノ酸の分離はどんなところで用いられているのか議論できた。
	8	教員のリフレクション	定期考査で理解度を測定します。
継続	9	IDモデルに当てはめると？	メリルのID第一原理 活性化：既に知っている知識を動員する。応用：応用するチャンスがある。

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 理科 氏名 _____

授業実施日：令和元年11月 1日

本時の見せどころは・・・

組換え価と遺伝子間の距離を結びつけて考える

視点			記入欄
科目・研修名			生物
出入口	1	生徒・受講者	①所属 普通科2年7組 ②人数 28人(男子5人、女子23人) ③特徴・ニーズ 授業態度は真面目であり、語句の暗記は頑張っているようであるが、考察問題をやや苦手とする。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 生物の増え方と遺伝(中学校3年2分野) 次にどこで使いますか 植物の配偶子形成と発生
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 組換え価と染色体地図の作成 ②C/Eの問い 「組換え価の大小は何により決まるか」 ③方法 ■講義 ■演習 □グループワーク □実演 □実習 ④ICT □実物投影機 ■タブレット □_____ ⑤単元計画 (遺伝子の多様な組み合わせ) (1) 減数分裂による遺伝子の組み合わせ(2) (2) 受精による遺伝子の組み合わせ(1)(本時)
出口・評価	4	教員の評価の方法	①方法 □小テスト、■定期考査、□レポート、■シート提出、□実技テスト ②ICEに当てはめると？ □ideas(知識、技能の習得)： 連鎖について理解出来る。組換え価の計算方法を理解出来る。 □connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 減数分裂の際の染色体の動きと遺伝子の動きをリンクさせる。 組換え価と染色体上の遺伝子の距離を結びつけ理解する。 □extensions(応用、活用)： 遺伝的多様性を生み出すしくみを理解できる。
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★☆☆ ★★☆☆ ★★☆☆
生徒の自己評価	6	生徒のリフレクション	演習問題を通して、学習内容を理解出来ているかを確認する。
	7	ICEモデルに当てはめると	□ideas(知識、技能の習得)： 組換え価の計算ができたか？ □connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 組み換え価と遺伝子の距離を理解し、染色体地図が書けたか？ □extensions(応用、活用)： 遺伝的多様性を生み出すしくみを理解できたか？
継続	8	教員のリフレクション	演習問題を確認し、理解度を把握する
	9	IDモデルに当てはめると？	tool3 メリルのID 第一原理(2)活性化(3)例示(4)応用

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 生物 氏名 _____

授業実施日：令和元年 11月 1日

本時の見せどころは・・・

腎臓の構造と機能を理解し、血圧や尿量の変化などの生理現象を科学的に考察する。

視点			記述欄
科目・研修名			生物基礎
出入口	1	生徒・受講者	①所属 普通科1年1組 ②人数 41人（男子23人、女子18人） ③特徴・ニーズ 生物現象に関心がある生徒が多く、活発な発言ができる。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 細胞膜の性質（物質の透過性） 溶液の濃度の概念 動物の体のつくりとはたらき（中学校2年） 次にどこで使いますか 単細胞生物及び魚類の浸透圧調節 自律神経とホルモンによる体内環境の調節
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 腎臓の構造と機能 ②C/Eの問い 「体内環境を維持する上での腎臓の機能は何か？」 ③方法 ■講義 ■演習 □グループワーク □実演 □実習 ④ICT □実物投影機 ■タブレット ■プロジェクター 腎臓の構造の提示 ⑤単元計画 交流回路 (1) 腎臓と肝臓の役割 (2) 腎臓の構造とはたらき（本時） (3) 肝臓の構造とはたらき
出口・評価	4	教員の評価の方法	①方法 □小テスト、■定期考査、□レポート、□シート提出、□実技テスト ②ICEに当てはめると？ ■ideas（知識、技能の習得）： 基本的な腎臓の構造と機能（ろ過・再吸収）を説明できる ■connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 腎臓の機能（ろ過・再吸収）のしくみが理解できる。 ■extensions（応用、活用）： 腎臓の機能をヒトの生理現象と関連付けて考察できる。
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★★★ きわめる力 ★★☆ つなげる力 ★★☆
生徒の自己評価	6	生徒のリフレクション	腎臓の機能を理解して、血圧の変化及び尿量の変化などの生理現象について生徒どうしで考察する。
	7	ICEモデルに当てはめると	■ideas（知識、技能の習得）： 腎臓の各部の名称と簡単な機能（ろ過・再吸収）を説明できる。 ■connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： ろ過と再吸収による老廃物の排出と浸透圧の調節について理解できる。 ■extensions（応用、活用）： 血圧や尿量の変化など浸透現象が体内環境に与える影響を考察できる。
継続	8	教員のリフレクション	本時で学んだ腎臓による浸透現象の原理に関して、生徒の理解度を図るための問題演習を行う。
	9	IDモデルに当てはめると？	メリルのID第一原理

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」（2015）に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 生物 氏名 _____

授業実施日：令和元年 11月 1日

本時の見せどころは・・・

連鎖と組換えという複雑な現象を演習問題を通して理解し、生物多様性に寄与していることを理解する。

視点			記述欄
科目・研修名			生物
出入口	1	生徒・受講者	①所属 普通科2年6組 ②人数 27人（男子5人、女子22人） ③特徴・ニーズ 生物に対する知識について個人差が大きい。授業態度は比較的 真面目である。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 遺伝子の表記（遺伝子型） 減数分裂のしくみ 遺伝子と染色体の関係性 次にどこで使いますか 発生のしくみ 大学入試（二次試験）
方法・内容			①題材 遺伝子の組換え、染色体地図 ②C/Eの問い 「個体に遺伝的な多様性を生み出す仕組みを説明せよ。」 ③方法 ■講義 ■演習 □グループワーク □実演 □実習 ④ICT □実物投影機 ■タブレット ■プロジェクター ⑤単元計画 (1) 生殖法(1) (2) 減数分裂のしくみ(2) (3) 減数分裂による遺伝子の組み合わせ(2) (4) 受精による遺伝子の組み合わせ(本時)
出口・評価	4	教員の評価の方法	①方法 ■小テスト、■定期考査、□レポート、■シート提出、□実技テスト ②ICEに当てはめると？ ■ideas（知識、技能の習得）： 遺伝子の独立と連鎖を説明できる。組換え価を計算できる ■connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 減数分裂のしくみに関連付けて遺伝子の動きを説明できる。 ■extensions（応用、活用）： 遺伝子の組換えが遺伝的多様性を生み出すことを理解できる。
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★★★ ★★☆☆ ★★☆☆
生徒の自己評価	6	生徒のリフレクション	演習問題を通して、染色体上にある遺伝子の位置関係を理解し、組換えが多様性に寄与することを理解する。
	7	ICEモデルに当てはめると	■ideas（知識、技能の習得）： 独立と連鎖の違いは説明できるか？ ■connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 減数分裂における遺伝子の動きを説明できるか？ ■extensions（応用、活用）： 連鎖や組換えが生物にとってどのような利点があるか？
継続	8	教員のリフレクション	演習問題の結果を確認・集計し、生徒の理解度を測る。
	9	IDモデルに当てはめると？	ガニエの9事象①～⑦

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 理科 氏名 _____

授業実施日：令和元年11月1日

堆積岩を観察し、粒子の種類や大きさを調べることで分類する。

視点			記述欄
科目・研修名			地学基礎
出入口	1	生徒・受講者	① 所属 美術科2年A組 ② 人数 40人（男子3人、女子37人） ③ 特徴・ニーズ 地球科学的分野に興味関心がある。授業中は努力家で、理解の速いクラスである。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 地球上には様々な岩石が存在し、それらは地殻を形成している。それら岩石は、地層として表面上に表れている。 次にどこで使いますか 地球の歴史を知るために地球表層の変化を歴史的にとらえ、地層や岩石に残された記録を知る。
方法・内容			① 題材 堆積岩とその分類 ② C/E の問い 「堆積岩を観察し、粒子の種類や大きさを調べることで分類ができるのだろうか。」 ③ 方法 ■ 講義 □ 演習 ■ グループワーク □ 実演 ■ 実習 ④ ICT ■ 実物投影機 □ タブレット □ _____ ⑤ 単元計画 (1) 地表の変化 (2) 堆積岩とその分類（本時）
出口・評価	4	教員の評価の方法	① 方法 □ 小テスト、■ 定期考査、□ レポート、□ シート提出、□ 実技テスト ② ICE に当てはめると？ □ ideas（知識、技能の習得）： 堆積岩の分類がわかる。 □ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 堆積岩を観察し、粒子の種類や大きさを調べることができる。 □ extensions（応用、活用）： 堆積岩がどのように形成されたのかを考えることができる。
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★☆☆ きわめる力 ★★☆ つなげる力 ★☆☆
生徒の自己評価	6	生徒のリフレクション	問題演習により、理解度を確認する。
	7	ICEモデルに当てはめると	□ ideas（知識、技能の習得）： 堆積岩の分類ができたか？ □ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 堆積岩を観察し、粒子の種類や大きさを調べることができたか？ □ extensions（応用、活用）： 堆積岩がどのように形成されたのかを考えることができたか？
継続	8	教員のリフレクション	ICT を活用して、堆積岩の特徴を説明ができたか。
	9	IDモデルに当てはめると？	TOOL3 授業設計の原則（メリルのID第一原理）「活性化」「統合」 TOOL4 ガニエの9教授事象

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」（2015）に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 物理 氏名 _____

授業実施日：令和元年 11月 1日

本時の見せどころは・・・

円運動している物体にはたらく力に気付き、数式を用いて表現できること

視点			記述欄
科目・研修名			物理
出入口	1	生徒・受講者	①所属 理数科2年S組 ②人数 42人（男子32人、女子10人） ③特徴・ニーズ 理系科目に興味が高い生徒が多い
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 弧度法（数学）、加速度、運動方程式 次にどこで使いますか 慣性力 ローレンツ力
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 等速円運動 ②C/Eの問い 「円運動に必要な力はあるような力か。」 ③方法 ☒ 講義 ☐ 演習 ☒ グループワーク ☐ 実演 ☐ 実習 ④ICT ☐ 実物投影機 ☐ タブレット ☐ _____ ⑤単元計画 交流回路 (1) 角速度 (2) 周期と回転数 (3) 等速円運動の加速度 (4) 円運動に必要な力 } 本時 1時間 1時間
出口・評価	4	教員の評価の方法	①方法 ☐ 小テスト、 ☒ 定期考査、 ☐ レポート、 ☐ シート提出、 ☐ 実技テスト ②ICEに当てはめると？ ☒ ideas（知識、技能の習得）： 弧度法 角速度の定義の習得 ☒ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 加速度 働く力 運動方程式とのつながり ☒ xtensions（応用、活用）： 日常における円運動にはたらく力の発見
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★★★ きわめる力 ★★★ つなげる力 ★☆☆
生徒の自己評価	6	生徒のリフレクション	生徒同士の議論、授業最後のまとめで、知識を理解できているかを確認する
	7	ICEモデルに当てはめると	☒ ideas（知識、技能の習得）： 計算式の意味が理解できたか？ ☒ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 加速度 円運動にはたらく力が理解できたか ☐ xtensions（応用、活用）：
継続	8	教員のリフレクション	定義が言語として理解できているか
	9	IDモデルに当てはめると？	ガニエの9事象①～⑦

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 理科 氏名 _____

授業実施日：令和元年11月1日

本時の見せどころは
相互誘導による銅管の空中浮遊

視点			記入欄
科目・研修名			物理
出入口	1	生徒・受講者	①所属 普通科理系3年4組 ②人数 40人（男子28人、女子12人） ③特徴・ニーズ 積極的に議論し、発言や質問も多い。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 交流連圧の式と電流の定義 次はどこで使いますか 交流回路
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 リアクタンス ②C/Eの問い 「コンデンサーに直流電圧をかけると電流はどのように変化するか？コンデンサーに交流電圧をかけると電流はどのように変化するか？」 ③方法 ■講義 □演習 ■グループワーク □実演 □実習 ④ICT □実物投影機 □タブレット ■CCDカメラとモニター ⑤単元計画 (1) コイルのリアクタンス (2) コンデンサーのリアクタンス (3) 交流回路のインピーダンス
出口・評価	4	教員の評価の方法	①方法 □小テスト、■定期考査、□レポート、□シート提出、□実技テスト ②ICEに当てはめると？ □ideas（知識・技能の習得）： コンデンサーに交流電圧をかけると変動する電流が流れ続ける。 □connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 電流の定義をコンデンサーの交流回路に当てはめると、実効値において抵抗として作用するリアクタンスが存在することを知る □extensions（応用、活用）： コンデンサーの交流回路では、電圧の位相に対して電流の位相が $\pi/2$ 進むこと知る。
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★★★ きわめる力 ★★☆ つなげる力 ★★☆
生徒の自己評価	6	生徒のリフレクション	生徒同士で教師の発問について議論し合う。
	7	ICEモデルに当てはめると	□ideas（知識・技能の習得）： 交流電圧ではコンデンサーに電流が流れ続けることを説明できる。 □connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： リアクタンスの式を活用できる。 □extensions（応用、活用）： コンデンサーの交流回路で電流の定義から、リアクタンスの式を導出できる。コンデンサーの交流回路では、電圧の位相に対して電流の位相が進むことを説明できる。
継続	8	教員のリフレクション	演習問題を議論しながら解答し、学習内容を振り返る。（ペアワーク等）
	9	IDモデルに当てはめると？	T00L4 ガニエの9教授事象⑥練習の機会をつくる

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」（2015）に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 物理 氏名 _____

授業実施日：令和元年 11月 1日

本時の見せどころは・・・

これまでに学習した内容を基に式や現象の理解に努める

視点			記入欄
科目・研修名			物理
出入口	1	生徒・受講者	①所属 普通科2年5組 ②人数 37人（男子26人、女子11人） ③特徴・ニーズ 物理の実験・演示は好きだが、授業中は基本的におとなしい
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 運動量 相対速度 等加速度直線運動 次にどこで使いますか 力学分野の複合問題
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 反発係数 ②C/Eの問い 「反発係数は何に依存するのか」 ③方法 ☒ 講義 ☒ 演習 ☒ グループワーク ☒ 実演 ☐ 実習 ④ICT ☐ 実物投影機 ☒ タブレット ☐ _____ ⑤単元計画 (1) 床との衝突（本時） (2) 直線上2物体の衝突（本時） (3) 床との斜めの衝突 (4) 運動量と力学的エネルギー
	4	教員の評価の方法	①方法 ☐ 小テスト、 ☒ 定期考査、 ☐ レポート、 ☐ シート提出、 ☐ 実技テスト (○○○・・・＜具体的な特徴があれば記述する＞) ②ICEに当てはめると？ ☐ ideas（知識、技能の習得）： 反発係数の定義の習得 ☐ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 2物体の場合は相対速度を用いること 等加速度運動 ☐ extensions（応用、活用）： 等加速度運動の式を用いた反発係数の別の表現 反発係数が物体の何によるのかを考える
出口・評価	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★★★★ ★★★★★ ★★☆☆
	6	生徒のリフレクション	生徒間の議論の様子
生徒の自己評価	7	ICEモデルに当てはめると	☐ ideas（知識、技能の習得）： 反発係数の定義が理解できたか ☐ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 二つの物体が動く場合はどのような速度の扱い方をすべきか 速度を別の表現で表すことができたか ☐ extensions（応用、活用）： 反発係数の定義はなぜそのようなになるのかを推測できたか
	8	教員のリフレクション	反発係数の定義とその形の意味が理解できたか
継続	9	IDモデルに当てはめると？	ガニエの9教授事象

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」（2015）に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 物理基礎 氏名 _____

授業実施日：令和元年 11月1日

本時の見せどころは・・・

水の中にある物体にはたらく力に気づき、文字式を用いて表現できること

視点			記述欄
科目・研修名			普通科1学年 物理基礎 「圧力と浮力」
出入口	1	生徒・受講者	①所属 普通科1年5組 ②人数 41人（男子21人、女子20人） ③特徴・ニーズ 学習に対する意欲が旺盛で積極的な発言がみられる。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 圧力(単位 Pa) 大気圧 次にどこで使いますか ボイル・シャルルの法則
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 水圧 ②C/Eの問い 「水圧の公式はどのように導き出すことができるのか？」 ③方法 ■講義 ■演習 ■グループワーク □実演 □実習 ④ICT □実物投影機 □タブレット □ _____ ○○○・・・、○○○・・・ ⑤単元計画 (1) 圧力と浮力（本時） (2) 水圧 (3) 浮力
出口・評価	4	教員の評価の方法	①方法 ■小テスト、■定期考査、■レポート、□シート提出、□実技テスト ②ICEに当てはめると？ ■ideas（知識、技能の習得）： 圧力・水圧に関する基本的な知識の定着。 ■connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 圧力・水圧について公式の関連ができています。 □extensions（応用、活用）：
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★★☆ ★★☆☆ ★★★★★
生徒の自己評価	6	生徒のリフレクション	生徒同士で導出過程を説明できる。
	7	ICEモデルに当てはめると	■ideas（知識、技能の習得）： 圧力・水圧について説明できたか？ ■connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 圧力・水圧について公式の関連できたか？ □extensions（応用、活用）：
継続	8	教員のリフレクション	後日実施の小テストで到達度を測ります。
	9	IDモデルに当てはめると？	A R C SのConfidenceを意識して授業を行います。

※日本教育工学会 FD セミナー「大学授業設計の点検ワークシート」（2015）に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 物理基礎 氏名 _____

授業実施日：令和元年 11 月 1 日

本時の見せどころは・・・
運動の法則を、実験を通して体験する

視点			記述欄
科目・研修名			物理基礎
出入口	1	生徒・受講者	①所属 普通科科1年3組 ②人数 42人（男子23人、女子19人） ③特徴・ニーズ 実験に対して積極的に取り組むことができる
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 等加速度直線運動3式 次にどこで使いますか 運動方程式応用
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 運動の法則 ②C/Eの問い 「引く力と質量を変化させ、物体に生じる加速度の関係を導き出せるか」 ③方法 ☐ 講義 ☐ 演習 ☒ グループワーク ☐ 実演 ☒ 実習 ④ICT ☒ 実物投影機 ☐ タブレット ☐ _____ ⑤単元計画 (1) 慣性の法則 1時間 (2) 運動の法則 2時間 (3) 運動方程式 1時間 (4) 運動の法則実験 1時間（本時）
出口・評価	4	教員の評価の方法	①方法 ☐ 小テスト、 ☐ 定期考査、 ☒ レポート、 ☐ シート提出、 ☐ 実技テスト ②ICEに当てはめると？ ☒ ideas（知識、技能の習得）： ・力と質量を変化させて速度を測定する ・等加速度直線運動の式から加速度をもとめる ☒ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 力と加速度、質量と加速度の関係を数式、グラフを用いて説明する ☒ extensions（応用、活用）： 日常生活での運動について、運動の法則から説明する
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★★★ きわめる力 ★☆☆ つなげる力 ★★★
生徒の自己評価	6	生徒のリフレクション	実験の考察を行い、グループで共有する
	7	ICEモデルに当てはめると	☒ ideas（知識、技能の習得）： 実験から速度を測定できたか？ 公式から加速度を求めることができたか？ ☒ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 運動の法則を、実験から導き出せたか？ ☒ extensions（応用、活用）： 日常生活での運動について運動の法則から説明できるようになったか
継続	8	教員のリフレクション	作成したレポートで、考察が来ているかを評価する
	9	IDモデルに当てはめると？	ケラーのARCSモデル

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」（2015）に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 情報 氏名 _____

授業実施日：令和元年 11月 1日

本時のみせどころは・・・

文書およびデータから内容を読み解けるか

視点			
科目・研修名			物理
出入口	1	生徒・受講者	①所属 普通科 2年6組 ②人数 37人（男子15人、女子22人） ③特徴・ニーズ 授業に対する意欲が高い
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか グラフの作成方法 次にどこで使いますか 文書の統合
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 SSHの資料を基にレポートを仕上げる ②C/Eの問い どんな時にどんなグラフが有効か ③方法 ☐ 講義 ☐ 演習 ☐ グループワーク ☐ 実演 ☒ 実習 ④ICT ☐ 実物投影機 ☐ タブレット ☒ PC ⑤単元計画 グラフの作成 (1) グラフの種類確認 (2) 棒グラフの作成 (3) 円グラフの作成 (4) 文書の統合 (5) 文書の作成 } 1時間 } 1時間 1時間
	4	教員の評価の方法	①方法 ☐ 小テスト、 ☒ 定期考査、 ☐ レポート ☒ 課題提出、 ☐ 実技テスト ②ICEに当てはめると？ ☒ ideas（知識・技能の習得）： グラフの種類の確認 ☒ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： グラフの作成 ☒ extensions（応用、活用）： 文書・データからの読み取り
出口・評価	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★★☆ きわめる力 ★★★ つなげる力 ★★☆
	6	生徒のリフレクション	生徒同士の議論、作成した文書を提出し理解できているかを確認する
生徒の自己評価	7	ICEモデルに当てはめると	☒ ideas（知識・技能の習得）： グラフの種類は適切か ☒ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： グラフを作成できたか ☐ extensions（応用、活用）： グラフを含めた文書を完成させたか
	8	教員のリフレクション	文書を読み解くことができ、かつ適切なグラフを作成できたか
継続	9	IDモデルに当てはめると？	

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 外国語（英語）氏名

授業実施日：令和元年11月 1日

本時の見せどころは・・・

生徒間のインタラクション（合意形成）

視点			記述欄
科目・研修名			コミュニケーション英語Ⅲ
出入口	1	生徒・受講者	①所属 普通科3年1組 ②人数 43人（男子19人、女子24人） ③特徴・ニーズ 向学心が高い
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 文章の論理構成（ $A=B$ $A\leftrightarrow B$ $A\Rightarrow B$ ） 次にどこで使いますか 論説文などの読解
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 （C/Eの問い、指導方法、展開）	①題材 「現代を探る」 Unit11 Modern Civilization（信州大学） ②C/Eの問い 電子書籍と紙の書籍の今後 思想家はどのようにとらえているか？ ③方法 ☒ 講義 ☐ 演習 ☐ グループワーク ☐ 実演 ☐ 実習 ④ICT ☐ 実物投影機 ☐ タブレット ☐ _____ ⑤単元計画 （1）演習解説（本時）
	4	教員の評価の方法	①方法 ☐ 小テスト、 ☒ 定期考査、 ☐ レポート、 ☐ シート提出、 ☐ 実技テスト ②ICEに当てはめると？ ☐ ideas（知識、技能の習得）： 解法の着眼点 ☐ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 背景知識の活性化、横断 ☐ extensions（応用、活用）： エッセイライティングへの応用
出口・評価	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★★★ ★★☆☆ ★☆☆
	6	生徒のリフレクション	予習時点での解法を対話によって合意形成を図る（ジンテーゼ）
生徒の自己評価	7	ICEモデルに当てはめると	☐ ideas（知識、技能の習得）： 解法の着眼点をもとに記述答案を作成できたか？ ☐ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 題材テーマに対する筆者の主張を理解した上で背景知識に広がりがあったか？ ☐ extensions（応用、活用）： 書く技能においても応用する観点を養うことができたか？
	8	教員のリフレクション	生徒間での合意形成（話し合い）を適宜行う。
継続	9	IDモデルに当てはめると？	メリルのID第1原理：解決すべき問題に合意形成を図る過程で何が違うのかを理解する。

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」（2015）に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 英語 氏名 _____

授業実施日：令和元年11月1日

本時の見せどころは・・・
即興で行うプレゼンテーション力

視点			記述欄
科目・研修名			英語表現 I
出入口	1	生徒・受講者	①所属 普通科1年7組 ②人数 41人（男子22人、女子19人） ③特徴・ニーズ 意欲的・積極的な生徒が多く、グループ活動にも協力的な生徒が多い。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 語彙力、文法知識、文章構成能力、リスニング力、会話力 次にどこで使いますか エッセイライティング、スピーチ、ディベートなど
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 即興型ディベート トピック 「High school students should have part-time jobs.」 ②C/Eの問い 「相手の意見を聞き取り、それに対して自分の意見を言えるようになる」 ③方法 ☐ 講義 ☐ 演習 ☒ グループワーク ☒ 実演 ☐ 実習 ④ICT ☐ 実物投影機 ☒ タブレット ⑤単元計画 (1) 1学年即興型ディベート研修 (2) 即興型ディベート実践1（本時）
	4	教員の評価の方法	①方法 ☐ 小テスト、 ☐ 定期考査、 ☐ レポート、 ☒ シート提出、 ☐ 実技テスト (自己評価シート) ②ICEに当てはめると？ ☐ ideas（知識、技能の習得）： 即興型ディベートのルール、プレゼンテーションスキル ☐ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 様々な論題を扱い、幅広い知識を得る ☐ extensions（応用、活用）： 聴衆を意識して論理的なプレゼンテーションを行う
出口・評価	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★★★ きわめる力 ★★★ つなげる力 ★★☆
	6	生徒のリフレクション	チームで協力しながら相手の意見を聞き取り、それに対してチームで論を立てる力を養う。
生徒の自己評価	7	ICEモデルに当てはめると	☐ ideas（知識、技能の習得）： 即興型ディベートについて理解できたか？ ☐ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： これまで学んできた表現するための知識を活用して意見を述べることでできたか？ ☐ extensions（応用、活用）： 様々な意見に対して論理的な思考を深めることができたか？
	8	教員のリフレクション	ファシリテーターとして各グループの活発なディベート活動を促す
継続	9	IDモデルに当てはめると？	TOOL3 授業設計の原則「活性化」「例示」

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 コミ英語Ⅰ 氏名 _____

授業実施日：令和元年11月1日

本時の見せどころは・・・
即興でのプレゼンテーション力

視点			記述欄
科目・研修名			科学英語
出入口	1	生徒・受講者	①所属 普通科1年4組 ②人数 41人（男子22人、女子19人） ③特徴・ニーズ 意欲的・積極的な生徒が多く、グループ活動にも協力的な生徒が多い。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと思うことは何ですか 語彙力、文法知識、文章構成能力、リスニング力、会話力 次にどこで使いますか エッセイライティング、スピーチ、ディベートなど
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 即興型ディベート トピック 「High school students should have part-time jobs.」 ②C/Eの問い 「相手の意見を聞き取り、それに対して自分の意見を言えるようになろう」 ③方法 ☐ 講義 ☐ 演習 ☒ グループワーク ☒ 実演 ☐ 実習 ④ICT ☐ 実物投影機 ☒ タブレット ⑤単元計画 (1) 1学年即興型ディベート研修 (2) 即興型ディベート実践1（本時）
	4	教員の評価の方法	①方法 ☐ 小テスト、 ☐ 定期考査、 ☐ レポート、 ☒ シート提出、 ☐ 実技テスト (自己評価シート) ②ICEに当てはめると？ ☐ ideas（知識、技能の習得）： 即興型ディベートのルール、プレゼンテーションスキル ☐ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 様々な論題を扱い、幅広い知識を得る ☐ extensions（応用、活用）： 聴衆を意識して論理的なプレゼンテーションを行う
出口・評価	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★★★ きわめる力 ★★★ つなげる力 ★★☆
	6	生徒のリフレクション	チームで協力しながら相手の意見を聞き取り、それに対してチームで論を立てる力を養う。
生徒の自己評価	7	ICEモデルに当てはめると	☐ ideas（知識、技能の習得）： 即興型ディベートについて理解できたか？ ☐ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： これまで学んできた表現するための知識を活用して意見を述べるのができたか？ ☐ extensions（応用、活用）： 様々な意見に対して論理的な思考を深めることができたか？
	8	教員のリフレクション	ファシリテーターとして各グループの活発なディベート活動を促す
継続	9	IDモデルに当てはめると？	TOOL3 授業設計の原則「活性化」「例示」

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」（2015）に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 外国語（英語）氏名

授業実施日：令和元年11月 1日

本時の見せどころは・・・

生徒間のインタラクション（合意形成）

視点			記述欄
科目・研修名			コミュニケーション英語Ⅲ
出入口	1	生徒・受講者	①所属 普通科3年S組 ②人数 40人（男子32人、女子8人） ③特徴・ニーズ 積極的にグループワークに取り組む・発言する
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 文章の論理構成 次にどこで使いますか 論説文などの読解
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 「現代を探る」 Unit12 Health Care（早稲田大学） ②C/Eの問い 電子書籍と紙の書籍の今後 思想家はどのようにとらえているか？ ③方法 ☒ 講義 ☐ 演習 ☐ グループワーク ☐ 実演 ☐ 実習 ④ICT ☐ 実物投影機 ☐ タブレット ☐ _____ ⑤単元計画 (1) 演習解説（本時）
	4	教員の評価の方法	①方法 ☐ 小テスト、 ☒ 定期考査、 ☐ レポート、 ☐ シート提出、 ☐ 実技テスト ②ICEに当てはめると？ ☐ ideas（知識、技能の習得）： 解法の着眼点 ☐ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 背景知識の活性化、横断 ☐ extensions（応用、活用）： エッセイライティングへの応用
出口・評価	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★★★ きわめる力 ★★☆ つなげる力 ★★☆
	6	生徒のリフレクション	予習時点での解法を対話によって合意形成を図る（ジンテーゼ）
生徒の自己評価	7	ICEモデルに当てはめると	☐ ideas（知識、技能の習得）： 解法の着眼点をもとに記述答案を作成できたか？ ☐ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 題材テーマに対する筆者の主張を理解した上で背景知識に広がりがあったか？ ☐ extensions（応用、活用）： 書く技能においても応用する観点を養うことができたか？
	8	教員のリフレクション	生徒間での合意形成（話し合い）を適宜行う。
継続	9	IDモデルに当てはめると？	メルルのID第1原理：解決すべき問題に合意形成を図る過程で何が違うのかを理解する。

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 科学英語 氏名 _____

授業実施日：令和元年11月1日

本時の見せどころは・・・
即興でのプレゼンテーション力

視点			記述欄
科目・研修名			科学英語
出入口	1	生徒・受講者	①所属 理数科1年S組 ②人数 43人（男子33人、女子10人） ③特徴・ニーズ 意欲的・積極的な生徒が多い一方、英語はしない、と決めつけている生徒も少なからずいる。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 語彙力、文法知識、文章構成能力、リスニング力、会話力 次にどこで使いますか エッセイライティング、スピーチ、ディベートなど
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 即興型ディベート トピック 「A robot dog is better than a real dog.」 ②C/Eの問い 「相手チームの意見を的確に聞き取り、それに対する自チームの意見をまとめて発表できるか」 ③方法 ☐ 講義 ☐ 演習 ☒ グループワーク ☒ 実演 ☐ 実習 ④ICT ☐ 実物投影機 ☒ タブレット ⑤単元計画 (1) 5分間ディベート（2学期より、週1回） (2) 1学年即興型ディベート研修 (3) 即興型ディベート実践1 (4) 即興型ディベート実践2（本時）
	4	教員の評価の方法	①方法 ☐ 小テスト、 ☐ 定期考査、 ☐ レポート、 ☒ シート提出、 ☐ 実技テスト (自己評価シート) ②ICEに当てはめると？ ☐ ideas（知識、技能の習得）： 即興型ディベートのルール、プレゼンテーションスキル ☐ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 様々な論題を扱い、幅広い知識を得る ☐ extensions（応用、活用）： 聴衆を意識して論理的なプレゼンテーションを行う
出口・評価	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★★★ きわめる力 ★★★ つなげる力 ★★☆
	6	生徒のリフレクション	チームで協力しながら相手の意見を聞き取り、それに対してチームで論を立てる力を養う。
生徒の自己評価	7	ICEモデルに当てはめると	☐ ideas（知識、技能の習得）： 即興型ディベートについて理解できたか？ ☐ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： これまで学んできた表現するための知識を活用して意見を述べることでできたか？ ☐ extensions（応用、活用）： 様々な意見に対して論理的な思考を深めることができたか？
	8	教員のリフレクション	ファシリテーターとして各グループの活発なディベート活動を促す
継続	9	IDモデルに当てはめると？	TOOL3 授業設計の原則「活性化」「例示」

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」（2015）に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 コミュニケーション英語Ⅱ 氏名 _____

授業実施日：令和元年11月1日

本時の見せどころは・・・
ストーリーを自分の言葉で説明する。

視点			記述欄
科目・研修名			科学英語
出入口	1	生徒・受講者	①所属 理数科2年8組 ②人数 37人（男子13人、女子24人） ③特徴・ニーズ 男子生徒は活動の際は活発である。女子は真面目に黙々と取り組む生徒が多い。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 語彙力、文法知識、文章構成能力、リスニング力、会話力 次にどこで使いますか エッセイライティング、スピーチ、ディベートなど
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 LESSON 6 「Caddy for Life」 ②C/Eの問い 「本文の内容を英語で説明できるか」 ③方法 □講義 □演習 ☒ グループワーク ☒ 実演 □実習 ④ICT □実物投影機 ☒ タブレット ⑤単元計画 (1) 内容理解 (2) 語彙・音読 (3) リテリング活動（本時） (4) 文法事項学習
出口・評価	4	教員の評価の方法	①方法 □小テスト、 ☒ 定期考査、□レポート、□シート提出、□実技テスト ②ICEに当てはめると？ □ideas（知識、技能の習得）： 本文の内容理解・単語、文法事項の定着 □connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 単語や構文の意味を理解しつつ本文の内容を捉える。 □extensions（応用、活用）： 本文について自分の言葉で説明する。
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★★★ きわめる力 ★★★ つなげる力 ★★☆
生徒の自己評価	6	生徒のリフレクション	ペアで発表を行い、相手の話す内容を理解する。
	7	ICEモデルに当てはめると	□ideas（知識、技能の習得）： 単語や構文は身についたか。 □connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 本文の内容を理解できたか。 □extensions（応用、活用）： 自分の言葉で相手に理解できるように説明できたか。
継続	8	教員のリフレクション	生徒の活動を補助する。
	9	IDモデルに当てはめると？	TOOL 3 授業設計の原則「活性化」「例示」

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」（2015）に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 英語 氏名 _____

授業実施日：令和元年11月1日

本時の見せどころは・・・

Moodle を使った授業、パソコンを使って表現を覚え、実際に活用してみよう。

視点			記述欄
科目・研修名			コミュニケーション英語・英語表現
出入口	1	生徒・受講者	①所属 普通科2年3組 ②人数 45人（男子22人、女子23人） ③特徴・ニーズ 発想力が豊かではないので短文しか書けない。まとまりのある論点のはっきりした英作文をできるようにする。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 様々な比較の表現 と つなぎ語を適切な場所で使えること。 次にどこで使いますか エッセイライティングやパラグラフライティング
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 Comparison and Contrast, Paragraph Writing p122-p123 ②C/Eの問い ③方法 ☐ 講義 ☒ 演習 ☒ グループワーク ☐ 実演 ☐ 実習 ④ICT ☐ 実物投影機 ☒ タブレット ☒ コンピューター まず、ムードルでモデル文を読み、音読練習をさせる。 内容を理解しているか、設問で確認する。 実際に英作文をさせる。グループ内での発表をさせる。 グループ内で評価を行う。訂正したものを録音して提出する。 ⑤単元計画 (1) 音読練習、設問での確認、英作文（演習） (2) 発表、ならびにグループ内での評価、録音
出口・評価	4	教員の評価の方法	①方法 ☐ 小テスト、 ☐ 定期考査、 ☐ レポート、 ☒ ノート提出、 ☒ 実技テスト 音読をさせて、WPMを測定する。英作文の発表。 ②ICEに当てはめると？ ☐ ideas（知識、技能の習得）： グループ内で発表する際、なるべく暗記して言おうとしているか（習得） また、友人の発表を、評価シートを用いて評価できるか。 ☐ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 英作文の添削を行い、既知の知識を使って表現できているか、確認する。 ☐ extensions（応用、活用）： 一人一人が自分の英作文を録音し、それを聞いてALTと評価する。
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★★☆ ★★☆☆ ★★★★★
生徒の自己評価	6	生徒のリフレクション	友人に評価してもらったシートを見て、自分の英作文を書き直し、感想を書いて振り返り、英作文のシートを提出する。
	7	ICEモデルに当てはめると	☐ ideas（知識、技能の習得）： WPMで120を超えることができたか？ ☐ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 授業で学んだ表現や展開パターンを使うことができたか？ ☐ extensions（応用、活用）： JTEやALTの評価を聞き（あるいは読み）、訂正したものを確実に理解して暗記しながら発表できたか？
継続	8	教員のリフレクション	○音読させるモデル文を十分に用意できたか。○生徒の活動の時間をとることができたか。
	9	IDモデルに当てはめると？	○○○・・・

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 体育 氏名

授業実施日：令和元年10月24日 本時のみせどころ「笑顔あふれる試合」

視点			記述欄
科目・研修名			体育
出入口	1	生徒・受講者	① 所属 2年1・4・6・7組 ② 人数 42人（男子23人、女子19人） ③ 特徴・ニーズ ソフトボールを選択し、楽しく積極的に活動することができる集団である。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 前提領域：水泳 バディでの活動などで、互いにコミュニケーションをとりながら、泳法を向上させる。 次にどこで使いますか 後続領域：ソフトボールのゲームにおいてチームの課題を発見し、改善するために、互いに話し合いながらチームの質を向上させる。
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	① 題材 ソフトボール ② C/Eの問い チームとしての課題を改善するためには？ ③方法 ☐ 講義 ☐ 演習 ☐ グループワーク ☐ 実演 ☒ 実習 ④ ICT ☐ 実物投影機 ☐ タブレット ☐ ⑤単元計画 (1) キャッチボール、トスバッティング (5) ゲーム① (2) キャッチボール、トスバッティング (6) ゲーム② (3) 試しのゲーム、ルールの確認 (7) ゲーム③ (4) ノック、試しのゲーム (8) ゲーム④
	4	教員の評価の方法	①方法 ☐ 小テスト、 ☐ 定期考査、 ☐ レポート、 ☐ シート提出、 ☒ 実技テスト ②ICEに当てはめると？ ■ideas（知識、技能の習得）： 「投げる、捕る、打つ」を確実に行うことができる。 ■connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： ルールを理解したプレーを行い、積極的に声掛けができる。 ■extensions（応用、活用）： 自分やチームの課題を修正してゲームをすることができる。
出口・評価	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★★★ ★★☆☆ ★★☆☆
	6	生徒のリフレクション	チームごとのミーティングとアドバイス
生徒の自己評価	7	ICEモデルに当てはめると	■ideas（知識、技能の習得）： 互いに声を掛け合い、「投げる、捕る、打つ」ができたか？ ■connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： ルールを確認し、プレーに生かすことができたか？ ■extensions（応用、活用）： 自分やチームの課題を改善し動きを修正することができたか？
	8	教員のリフレクション	生徒たちが一生懸命活動を行い、声を出し、笑顔が絶えない授業とすることができたか。
継続	9	IDモデルに当てはめると？	TOOL4 ガニエの9教授事象

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 体育 氏名

授業実施日：令和元年11月1日 本時のみせどころ「やって楽しい・見て楽しい」

視点			記述欄
科目・研修名			体育
出入口	1	生徒・受講者	① 所属 普通科2年2.3組 / 5.8組 ② 人数 57人(女子57人)/36人(女子36人) ③ 特徴・ニーズ ダンス(創作ダンス)で表したいイメージにふさわしく動く。グループで躍り込み・見せ合い・修正をする
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らない困ることは何ですか 前提領域：水泳 上・下半身の使い方や息継ぎのタイムミングなど体の動きを調整・修正することが大切である。 次にどこで使いますか 後続領域：ダンス(創作ダンス)テーマを表現するためには、体全体(腕・肩・足等)を使った動きを創作する。
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	① 題材 創作ダンス ② C/Eの問い 「○○○・・・？」 ③ 方法 □講義 □演習 ■グループワーク □実演 ■実習 ④ ICT □実物投影機 ■タブレット ■プロジェクター ⑤ 単元計画 (1) アンケート・ビデオ鑑賞① (5) 躍り込み・修正<本時> ③ (2) テーマ決め・係決め① (6) クラス発表会 ① (3) 動きづくり③ (7) 相互評価 ① (4) 隊形取り ① (8) 校内創作ダンス発表会 ①
	4	教員の評価の方法	①方法 □小テスト、□定期考査、□レポート、■シート提出、■実技テスト (○○○・・・<具体的な特徴があれば記述する>) ②ICEに当てはめると？ ■ideas(知識、技能の習得)： テーマから浮かぶ言葉の発表 テーマから浮かぶ動きづくり ■connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 体いっばいで表現・グループでの活動 ■extensions(応用、活用)： テーマに沿ったダンスを完成させる。踊れる。鑑賞できる。
出口・評価	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★★★★★ きわめる力 ★★★★★ つなげる力 ★★★★★
	6	生徒のリフレクション	お互いに踊りを見せ合い反省、次回への作戦会議
生徒の自己評価	7	ICEモデルに当てはめると	■ideas(知識、技能の習得)： テーマから浮かぶ言葉がでたか？ 動けたか？ ■connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 音に合わせて、テーマに沿ってグループで動けたか？ ■extensions(応用、活用)： テーマに沿って、発表会で踊れたか？鑑賞できたか
	8	教員のリフレクション	そのものになりきって踊り、創り上げる楽しさを感じられる授業
継続	9	IDモデルに当てはめると？	

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 保健 氏名 _____

授業実施日：令和元年11月1日

視点			記述欄
科目・研修名			保健
出入口	1	生徒・受講者	① 所属（学年、科、職員）1年2組 ② 人数 41人 ③ 特徴・ニーズ 授業での学習内容が日常生活に生かしていけること。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 健康に関する基本的な考え方の理解 次にどこで使いますか 生涯を通じて、健康に留意した生活を送る。
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	① 題材 「現代の感染症」 ② C/Eの問い 今日の感染症の問題点は何か？ ④ 方法 ■講義 □演習 ■グループワーク □実演 □実習 ⑤ ICT ■実物投影機 □タブレット □ ⑥ 単元計画（本時） (1) 知っている感染症についてグループで話し合う。 (2) 感染症の発生・流行は時代や地域によって異なることを学ぶ。 (3) 新興感染症と再興感染症の問題点についてグループで考える。 安全性の対策について学ぶ。
出口・評価	4	教員の評価の方法	①方法 □小テスト、■定期考査、□レポート、□シート提出、□実技テスト ノート提出 ②ICEに当てはめると？ □ideas（知識、技能の習得）： 感染症の発生・流行に関する知識の習得。 □connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 新興感染症と再興感染症の知識理解。 □extensions（応用、活用）： 感染症を理解し、日々の生活に生かしていける。
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★☆☆ きわめる力 ★☆☆ つなげる力 ★★★
生徒の自己評価	6	生徒のリフレクション	提出したノートで振り返る。
	7	ICEモデルに当てはめると	□ideas（知識、技能の習得）： グループ内で他の人の発表を理解し、自分の考えも発表できたか？ □connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 新興感染症と再興感染症に関する知識を習得したか？ □extensions（応用、活用）： 今日の感染症の問題を理解し、日々の生活でどうゆう対策が必要かを考えることができたか？
継続	8	教員のリフレクション	他の体育教師と授業内容を振り返る。
	9	IDモデルに当てはめると？	TOOL3 メルリのID 第一原理 「活性化」と「統合」

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 体育 氏名 _____

授業実施日：令和元年11月1日 本時のみせどころ「生徒間でのコミュニケーション」

視点			記述欄
科目・研修名			体育
出入口	1	生徒・受講者	① 所属 2年1・4・6・7組 ② 人数 46人（男子24人、女子22人） ③ 特徴・ニーズ バドミントンを選択し、楽しく積極的に活動することができる集団である。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 前提領域：水泳 バディでの活動などで、互いにコミュニケーションをとりながら、泳法を向上させる。 次にどこで使いますか 後続領域：バドミントンのゲームにおいてチームの課題を発見し、改善するために、ペアで互いに話し合いながらチームの質を向上させる。
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	① 題材 バドミントン ② C/Eの問い チームとしての課題を改善するためには？ ③方法 ☐ 講義 ☐ 演習 ☐ グループワーク ☐ 実演 ☒ 実習 ④ICT ☐ 実物投影機 ☐ タブレット ☐ _____ ⑤単元計画 (1) 基本技術（シャトル打ち上げ） (5) ゲーム① (2) 基本技術（ラリー） (6) ゲーム② (3) 試しのゲーム① (7) ゲーム③ (4) 試しのゲーム② (8) ゲーム④
	4	教員の評価の方法	①方法 ☐ 小テスト、 ☐ 定期考査、 ☐ レポート、 ☐ シート提出、 ☒ 実技テスト ②ICEに当てはめると？ ■ideas（知識、技能の習得）： ラリーをつづけゲームすることができる ■connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 空いたスペースを狙いゲームをすることができる ■extensions（応用、活用）： 相手チームに特徴を理解し作戦を練ってゲームをすることができる
出口・評価	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★★★★★ きわめる力 ★★☆☆ つなげる力 ★★☆☆
	6	生徒のリフレクション	チームごとのミーティングとアドバイス
生徒の自己評価	7	ICEモデルに当てはめると	■ideas（知識、技能の習得）： 互いに声を掛け合い、必要な技術を使うことができるか？ ■connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： チームの課題を発見しようとしているか？ ■extensions（応用、活用）： チームの課題を改善し動きを修正することができているか？
	8	教員のリフレクション	ミーティングする機会をつくる。 必要なアドバイスを与える。
継続	9	IDモデルに当てはめると？	

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」（2015）に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 体育 氏名

授業実施日：令和元年11月1日

視点			記述欄
科目・研修名			体育
出入口	1	生徒・受講者	① 3年3・4・7・S・A組 ソフトボール選択者 ② 21人 ③ 特徴・ニーズ ソフトボールを選択し、楽しく積極的に活動することができる集団である。
	2	授業の位置付け	前提領域：水泳 後続領域：球技（後期選択）
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法（展開、指導方法）	① 題材 ソフトボール ② 方法 ☐ 講義 ☐ 演習 ☒ グループワーク ☒ 実技 ③ ICT ☐ 実物投影機 ☐ タブレット ☐ 実技の検証 ④ 他(展開等) (1) 基本技術（キャッチボール・バッティング）(5) ゲーム① (2) 守備練習 (6) ゲーム②、 (3) 簡易ゲーム (7) ゲーム③ (4) チーム練習 (8) ゲーム④
出口・評価	4	評価の方法	①方法 ☐ テスト、 ☐ 定期考査、 ☐ レポート、 ☐ ノート提出、 ☒ 実技テスト ②ICEに当てはめると？ ■ideas（知識、技能の習得）： 捕る。打つ、投げる基本技術を身に付ける ■connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： ゲームの状況に応じたバット操作やボール操作をすることができる ■extensions（応用、活用）： チームの特徴に応じた作戦を考え、実行することができる。
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	■完全一致している・ ☐ 部分的に一致・ ☐ 一致していない・ ☐ 不明
生徒の自己評価	6	生徒のリフレクション	チームごとのミーティングとアドバイス
	7	ICEモデルに当てはめると	■ideas（知識、技能の習得）： 互いに声を掛け合い、プレーができるか ■connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： チームの課題を発見しようとしているか ■extensions（応用、活用）： 課題に応じた、練習方法を工夫することができたか
継続	8	教員のリフレクション	ミーティングする機会をつくる。 必要なアドバイスを与える。
	9	IDモデルに当てはめると？	

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 体育 氏名

授業実施日：令和元年11月1日

本時のみせどころ「やって楽しい・見て楽しい」

視点			記述欄
科目・研修名			体育
出入口	1	生徒・受講者	① 所属 普通科3年1. 2. 4. 5. 8組 / 3. 6. 7. S. A組 ② 人数 54人(男子24人、女子30人)/59人(男子27人、女子32人) ③ 特徴・ニーズ 球技(バドミントン)の楽しさ、ルールやマナーを学びながら、自らが工夫や考え、試合に勝つための戦略的なスキルを上げてスポーツを楽しむ。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 前提領域：水泳 上・下半身の使い方や息継ぎのタイムミングなど体の動きを調整・修正することが大切である。 次にどこで使いますか 後続領域：球技(バドミントン) ハイクリアの高さ距離、スマッシュのフォーム、重心と肩や腰・手首といった連動した動きの中で体軸とラケットの使い方や筋力や反応速度の修正力につながっている。
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	① 題材 バレーボール ② C/Eの問い 「○○○・・・？」 ③ 方法 ☐ 講義 ☐ 演習 ☐ グループワーク ☐ 実演 ☒ 実習 ④ ICT ☐ 実物投影機 ☐ タブレット ☐ _____ ⑤ 単元計画 (1) クリア(ハイ、ミドル) (5) サーブとダブルスの戦略 (2) ドロップ、ヘアピン (6) ゲーム①(リープ戦) (3) スマッシュとレシーブ (7) ゲーム②(リーグ戦) (4) サーブ、ラリー、審判法 (8) ゲーム③(リーグ戦)
	4	教員の評価の方法	①方法 ☐ 小テスト、 ☐ 定期考査、 ☐ レポート、 ☐ シート提出、 ☒ 実技テスト (○○○・・・＜具体的な特徴があれば記述する＞) ②ICEに当てはめると？ ■ideas(知識、技能の習得)： ハイクリアやドロップ、スマッシュ、リターンができる ■connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)： バックハンドでも、正確かつ遠距離のシャトルが打てる ■extensions(応用、活用)： ダブルスの動きの連携が取れ、戦略的なゲームができています
出口・評価	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★★☆ ★★☆☆ ★★☆☆
	6	生徒のリフレクション	ゲーム後の反省、次回への作戦会議(リーグ戦の記録)
生徒の自己評価	7	ICEモデルに当てはめると	■ideas(知識、技能の習得)： 声を出し、ダブルスの連携を工夫しているか ■connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)： シャトル動きを予測しているか？相手の動きを読んで返しているか？ ■extensions(応用、活用)： ダブルスの動きの連携と戦略があるか？攻撃力や防御力が向上しているのか？
	8	教員のリフレクション	ゲームをしながらスキルアップ。ダブルスの楽しさが実感できている。
継続	9	IDモデルに当てはめると？	

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 体育 氏名

授業実施日：令和元年11月1日

視点			記述欄
科目・研修名			体育
出入口	1	生徒・受講者	① 3年1・2・4・5・8組 サッカー選択者 ② 22人 ③ 特徴・ニーズ サッカーを選択し、楽しく積極的に活動することができる集団である。
	2	授業の位置付け	前提領域：水泳 後続領域：球技（後期選択）
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法（展開、指導方法）	① 題材 サッカー ② 方法 ☐ 講義 ☐ 演習 ☒ グループワーク ☒ 実技 ③ ICT ☐ 実物投影機 ☐ タブレット ☐ 実技の検証 ④ 他(展開等) (1) 基本技術 (5) ゲーム (2) 基本技術練習 (6) ゲーム (3) 戦術理解 (7) ゲーム (4) ゲーム (8) ゲーム
出口・評価	4	評価の方法	①方法 ☐ テスト、 ☐ 定期考査、 ☐ レポート、 ☐ ノート提出、 ☒ 実技テスト ②ICEに当てはめると？ ■ideas（知識、技能の習得）： 止める、蹴る、の基本技術を身に付ける。 ■connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： ゲームの状況に応じた基本技術の活用ができる。 ■extensions（応用、活用）： チームの特徴に応じ、基本技術の応用や、状況判断ができる。
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	■完全一致している・ ☐ 部分的に一致・ ☐ 一致していない・ ☐ 不明
生徒の自己評価	6	生徒のリフレクション	チームごとのミーティングとアドバイス
	7	ICEモデルに当てはめると	■ideas（知識、技能の習得）： 互いに良い声を掛け合い、楽しくプレーができるか。 ■connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 自他両方のチームのストロングポイントやウィークポイントを発見しようとしているか。 ■extensions（応用、活用）： 相手に応じた、技術戦術を工夫することができたか
継続	8	教員のリフレクション	ミーティングする機会をつくる。 必要なアドバイスを与える。
	9	IDモデルに当てはめると？	

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 音楽Ⅱ 氏名 _____

授業実施日：令和元年11月1日

本時の見せどころは・・・

さまざまな表現方法を駆使しながら（緊張に耐えながら）
自分の音作りをしている生徒の様子をご覧ください。

視点			記述欄
科目・研修名			音楽Ⅱ
出入口	1	生徒・受講者	① 所属 普通科2年1組 音楽選択者 ② 人数 22人（男子13人、女子9人） ③ 特徴・ニーズ 男女問わず音楽に対する意欲に差がある。
	2	授業・研修の位置づけ	<u>以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか</u> 楽譜の読み方、発声、外国語（伊語、独語、羅語）の発音、その振り返り体験。 <u>次にどこで使いますか</u> ① 表現（器楽）の学習 ② 創作領域
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	① 題材 芸術歌曲を歌う ② C/Eの問い「音楽Ⅰの表現（歌唱）活動を活かし、表現の幅を広げることが、聴き手に伝わるか？」 ③ 方法 ■講義 ■グループワーク ■実演 ■作品 ■相互評価 ④ ICT ■実物投影機 □タブレット ■メディアプレーヤー ⑤ 単元計画 (1) 芸術歌曲とは？ 表現にあった音作り (2) 鑑賞、および考察 (3) 発表、および鑑賞(本時)
出口・評価	4	教員の評価の方法	①方法 □小テスト、□定期考査、□レポート、■シート提出、■実技 ②ICEに当てはめると？ □ideas（知識、技能の習得）： さまざまな表現方法があることを知ることができる。 □connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 表現した楽曲を言語化して説明することができる。 □extensions（応用、活用）： 作品に込められた感情を表現することができる。
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★★☆ きわめる力 ★★☆ つなげる力 ★★★
生徒の自己評価	6	生徒のリフレクション	歌唱の相互鑑賞 ワークシートによる文章での振り返り
	7	ICEモデルに当てはめると	□ideas（知識、技能の習得）： さまざまな言語、時代の表現方法があることを知ることができたか？ □connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 表現した楽曲を言語化して説明することができたか？ □extensions（応用、活用）： 1曲の芸術作品として表現することができたか？
継続	8	教員のリフレクション	歌唱発表終了後に相互評価する機会を設ける。
	9	IDモデルに当てはめると？	TOOL3 メリルのID 第一原理(3)例示 (4)応用 (5)統合

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 書道 氏名 _____

授業実施日：令和元年11月1日

本時の見せどころは・・・

さまざまな表現方法を駆使しながら楽しんで作品作りをしている生徒の様子をご覧ください。

視点			記述欄
科目・研修名			書道Ⅱ
出入口	1	生徒・受講者	① 所属 普通科2年1組書道選択者 ② 人数 13人（男子6人、女子7人） ③ 特徴・ニーズ 男女で書道に対する意欲に差がある。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 書道Ⅰでの創作活動(2019カレンダー作り)と、その振り返り体験。 次にどこで使いますか ① 来年度のカレンダー作成 ② 年度末の行う創作活動
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	① 題材 漢字仮名交じりの書の学習「表現方法を広げる」 ② C/Eの問い「書道Ⅰの創作活動を活かし、表現の幅を広げることが、心(感性)を豊かにするの？」 ③ 方法 □講義 ■グループワーク ■実演 ■作品 ■相互評価 ④ ICT ■実物投影機 □タブレット ⑤ 単元計画 (1) 表現とは？ 表現にあった作品作り① (2) 表現にあった作品作り②、相互鑑賞 (本時) (3) 全体鑑賞
出口・評価	4	教員の評価の方法	①方法 □小テスト、□定期考査、□レポート、■シート提出、■作品 ②ICEに当てはめると？ □ideas (知識、技能の習得)： さまざまな表現方法があることを知ることができる。 □connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 表現した作品を言語化して説明することができる。 □extensions (応用、活用)： 創作作品に表現することができる。
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★☆☆ きわめる力 ★★☆ つなげる力 ★★★
生徒の自己評価	6	生徒のリフレクション	制作後の作品 ワークシートによる文章での振り返り
	7	ICEモデルに当てはめると	□ideas (知識、技能の習得)： さまざまな表現方法があることを知ることができたか？ □connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 表現した作品を言語化して説明することができたか？ □extensions (応用、活用)： 創作作品に表現することができたか？
継続	8	教員のリフレクション	作品を相互評価する機会を作る。口頭発表の機会を作る。
	9	IDモデルに当てはめると？	TOOL3 メリルのID 第一原理(3)例示 (4)応用 (5)統合

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 美術 氏名 _____

授業実施日：令和元年11月2日

本時の見せどころは・・・

ビジネスマンにデッサンの講義をしている外部講師
増村岳史さんの講義です!!!

視点			記述欄
科目・研修名			美術探究
出入口	1	生徒・受講者	① 所属 美術科1年A組 ② 人数 40人（男子5人、女子35人） ③ 特徴・ニーズ デッサンの目的の理解
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか ・これまで行ってきたデッサンが何に活かされるか考えること。 次にどこで使いますか ・それぞれの専攻を決める際の判断材料。 ・それぞれのデッサンを深く探究するための意味づけ。
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	① 題材 「美術にロジックが必要なのか」 ② C/Eの問い 「見ることと描くことはどうつながっているか？」 ③ 方法 ■講義 ■演習 ■グループワーク □実演 □実習 ④ ICT □実物投影機 □タブレット □プロジェクター ⑤ 単元計画 (1) 演習を通して、認知した内容と描写について考える（本時）
出口・評価	4	教員の評価の方法	①方法 □小テスト、□定期考査、□レポート、■シート提出、■実技テスト ②ICEに当てはめると？ □ideas（知識、技能の習得）： 講義の狙いを感じ取ることができたか。 □connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 見ることと描くことに生じる差異に気づくことができたか。 □extensions（応用、活用）： 認知心理学的な視点でデッサンを捉えなおすことができたか。
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★★☆ ★☆☆ ★★☆☆
生徒の自己評価	6	生徒のリフレクション	互いの作品についての批評をする。 教師の質問について、文章で振り返る。
	7	ICEモデルに当てはめると	□ideas（知識、技能の習得）： 制作から感じたこと、気付いたことを言語化できたか？ □connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 根拠を明示して自己の作品を批評することができたか？ □extensions（応用、活用）： 「見る」行為が恣意的なものであると実感し、今後のデッサンに活かす姿勢を示すことができたか？
継続	8	教員のリフレクション	ワークシートの内容や批評活動の深まりから判断。 口頭発表の機会を設ける。
	9	IDモデルに当てはめると？	メリルのID第一原理、(5)統合：今回得た知識を制作活動に転移することを奨励する。

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 美術 氏名 _____

授業実施日：令和元年11月2日

本時の見せどころは・・・

ビジネスマンにデッサンの講義をしている外部講師
増村岳史さんの講義です!!!

視点			記入欄
科目・研修名			美術探究
出入口	1	生徒・受講者	① 所属 美術科3年A組 ② 人数 39人（男子11人、女子28人） ③ 特徴・ニーズ デッサンの目的の理解
	2	授業・研修の位置づけ	<u>以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか</u> ・これまで行ってきたデッサンが何に活かされるか考えること。 <u>次にどこで使いますか</u> ・それぞれの進路選択に応じたデッサン力向上。 ・美術系以外の職業にも応用。
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	① 題材 「ビジネスの限界をアートで越えろ」 ② C/Eの問い 「見ることと描くことはどうつながっているか？」 ③ 方法 ■講義 ■演習 ■グループワーク □実演 □実習 ④ ICT □実物投影機 □タブレット □プロジェクター ⑤単元計画 (1) ディスカッションと講義をと押してデッサンの意義について考える（本時）
出口・評価	4	教員の評価の方法	①方法 □小テスト、□定期考査、□レポート、■シート提出、■実技テスト ②ICEに当てはめると？ □ideas（知識、技能の習得）： 講義の狙いを感じ取ることができたか。 □connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 専門性が異なるとデッサンの意義が変わるか考える。 □extensions（応用、活用）： デッサン力をビジネスに活用できるか考える。
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ☆☆☆ きわめる力 ★★☆ つなげる力 ★★☆
生徒の自己評価	6	生徒のリフレクション	互いの作品についての批評をする。 教師の質問について、文章で振り返る。
	7	ICEモデルに当てはめると	□ideas（知識、技能の習得）： ディスカッションや講義から気付いたことを言語化できたか？ □connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 根拠を明示して自己の考えを示すことができたか？ □extensions（応用、活用）： デッサンをする行為にどのような意義があるのか？
継続	8	教員のリフレクション	ワークシートの内容や批評活動の深まりから判断。 □頭発表の機会を設ける。
	9	IDモデルに当てはめると？	メルルのID第一原理、(5)統合：今回得た知識を制作活動に転移することを奨励する。

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 美術 氏名 _____

授業実施日：令和元年11月2日

本時の見せどころは・・・作品制作を通して得た技法材料の知識の確認と整理です。創作活動に応用ができるように再確認します。

視点			記入欄
科目・研修名			絵画
出入口	1	生徒・受講者	① 所属 美術科1年A組 ② 人数 40人（男子5人、女子35人） ③ 特徴・ニーズ 制作に必要な技法材料の理解
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか ・モチーフの基本的な描写。これまでの授業や中間考査で描写について学んできた。 次にどこで使いますか ・大型作品の創作に活かします。
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	① 題材 「黄金背景テンペラの振り返り」 ② C/Eの問い 「素材の特性を理解して制作していますか」 ③ 方法 ■講義 □演習 ■グループワーク □実演 □実習 ④ ICT □実物投影機 □タブレット □プロジェクター ⑤ 単元計画 (1) 下地づくり。主題の生成。エスキース。 (2) 金箔貼り。下絵の転写。 (3) テンペラ技法で制作。 (4) 作品を制作手順の観点から振り返る。(本時)
出口・評価	4	教員の評価の方法	①方法 □小テスト、□定期考査、□レポート、■シート提出、■実技テスト ②ICEに当てはめると？ □ideas（知識、技能の習得）： 技法を正しく使えているか。 □connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 素材や色、モチーフの選出が的確であったか。 □extensions（応用、活用）： 素材や表現について、自分なりに感じたことを述べる。
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★☆☆ ★★☆☆ ★★☆☆
生徒の自己評価	6	生徒のリフレクション	互いの作品についての批評をする。 教師の質問について、文章で振り返る。
	7	ICEモデルに当てはめると	□ideas（知識、技能の習得）： 作品から感じたこと、気付いたことを言語化できたか？ □connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 「色彩、構図、絵の具や素材の工夫」の視点をもって、根拠を明示して作品を批評することができたか？ □extensions（応用、活用）： 自分の作品の新たな魅力や更なる工夫に気付くことができたか？また、これからの制作に生かそうとしているか？
継続	8	教員のリフレクション	ワークシートの内容や批評活動の深まりから判断。 口頭発表の機会を設ける。
	9	IDモデルに当てはめると？	メリルのID第一原理、(5)統合：今回得た知識を制作活動に転移することを奨励する。

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 美術 氏名 _____

授業実施日：令和元年11月5日

本時の見せどころは、生徒は何気なく取り組んでいる「鑑賞」について考えていきます。視覚芸術とも言われる美術ですが、様々な鑑賞法を探っていきます。

視点			記入欄
科目・研修名			美術科 彫刻
出入口	1	生徒・受講者	①所属 美術科2年A組 ②人数 40人（男子3人、女子37人） ③特徴・ニーズ
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 作品鑑賞の知識、立体作品の特徴、造形要素 次にどこで使いますか カービングの制作、人物の模刻制作
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材「美術を鑑賞すること～味わう？触れる？楽しむ？～」 ②C/Eの問い 「作品を鑑賞するベストな方法とは？」 ③方法 ☐ 講義 ☐ 演習 ☒ グループワーク ☐ 実演 ☐ 実習 ④ICT ☐ 実物投影機 ☐ タブレット ⑤単元計画 (1) 事前学習：「美術を鑑賞すること～味わう？触れる？楽しむ？～」 本時 →美術作品の「鑑賞」について考える (2) 「感情を表すかたち～手で感じるかたち～」 →感情をテーマに石膏塊をカービングする (3) 鑑賞会：「私の逸品」プレゼンテーション →自分の審美眼を信じ、おすすめの作品についてプレゼンを行う！
出口・評価	4	教員の評価の方法	①方法 ☐ 小テスト、 ☐ 定期考査、 ☐ レポート、 ☒ シート提出、 ☐ 実技テスト ②ICEに当てはめると？ ☐ ideas（知識、技能の習得） 様々な美術館の取り組みをもとに、作品鑑賞の方法についての知識が習得、整理できたか。 ☐ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク） 自分の経験をもとに、作品鑑賞手段についてまとめることができた。 ☐ extensions（応用、活用） 多様な鑑賞者を想定し、作品を鑑賞することについて考えることができた。
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★★☆ きわめる力 ☆☆☆ つなげる力 ★★★
生徒の自己評価	6	生徒のリフレクション	Classiでの事前課題、事後課題に取り組む。
	7	ICEモデルに当てはめると	☐ ideas（知識、技能の習得）： 様々な美術作品の鑑賞方法について説明することができたか？ ☐ connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 作品鑑賞について自分なりの視点を持ち、考えをまとめることができたか？他者の意見を踏まえ、考えを広げることができたか？ ☐ extensions（応用、活用）： 多様な鑑賞者を想定し、作品を鑑賞することについて考えることができたか？
継続	8	教員のリフレクション	制作時の主題や制作プランにおける、思考の深まりを評価する。
	9	IDモデルに当てはめると？	○○○・・・・

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 家庭 氏名 _____

授業実施日：令和元年11月1日

本時の見せどころは、質問の質をICEのチェックリストに基づいて考えるところです。質問の質を高め、質疑応答を楽しむ生徒の様子をごらんください。

視点			記述欄
科目・研修名			家庭基礎
出入口	1	生徒・受講者	①所属 普通科1年8組 ②人数 41人（男子22人、女子19人） ③特徴・ニーズ プレゼンを楽しむことができるが、もっと効果的にできるようになりたいと考えている生徒が多くみられる。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 健康につながる食生活について、その特長を説明することができる。 次にどこで使いますか 生涯の健康を見据えた食生活を送るための調理実習について、家庭実習の場面で応用することができる。
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 食生活の基礎知識理解② ②C/Eの問い 「生涯の健康を見据えた食生活のために、あなたがこれから実践することは？」 ③方法 □講義 □演習 ■グループワーク ■実演 □実習 ④ICT ■実物投影機 □タブレット □ ⑤単元計画 (1) 食生活の基礎知識理解①～⑤（本時 2/10h） (2) 調理実習1「郷土の野菜を利用した調理実習」（2h） (3) 反転調理実習2「親子どんぶり・青菜のピーナッツ和え」（2h）（動画視聴と実習計画表の作成後、家庭実習および報告） (4) 調理実習3「ALT出身地のテキサス料理実習」（2h） (5) 調理実習実習計画表の再点検（プログラミング的思考）（1h） (6) 全国高等学校家庭科技術検定食物調理4級受験（2h）
	4	教員の評価の方法	①方法 □小テスト、■定期考査、■レポート、■実習計画表提出、■実技テスト ②ICEに当てはめると？ □ideas（知識、技能の習得）： 日本人の食事摂取基準をはじめとする基礎知識を確認できる。 □connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 基礎知識や調理実習の体験をもとにした家庭実習で、健康的な食生活につながるができる。 □extensions（応用、活用）： 将来の自らの健康へ、現在の食生活がつながっていくことを想像でき、家族の食事計画・実践へとつなげることができる。
出口・評価	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★☆☆ ★☆☆ ★★☆☆
	6	生徒のリフレクション	質問の質を考えた、グループにとって生産的な質問をすることができたか？
生徒の自己評価	7	ICEモデルに当てはめると	□ideas（知識、技能の習得）： 心身ともに健康であるための食生活に関する基礎知識が確認できたか？ □connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 食生活の課題解決に向かうよう、知識・技術をよりよい食習慣形成につなげることができたか？ □extensions（応用、活用）： 生産的な質問作成を通して、生涯の健康を見据えた食生活を考えることができたか？
	8	教員のリフレクション	質問の質を相互評価する機会を作り、よりよい質の質問ができる次の場面を設定する。
継続	9	IDモデルに当てはめると？	TOOL3 メリルのID第一原理 「応用」再度挑戦する場面を設定し、実際に再度取り組ませる。

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」（2015）に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 家庭 氏名 _____

授業実施日：令和元年11月1日

本時の見せどころは、家庭での実践を想定し実習計画表を作成するところです。プログラミング的思考を意識しながら、自分事として手順思考を楽しむ生徒の様子をごらんください。

視点			記述欄
科目・研修名			家庭基礎
出入口	1	生徒・受講者	①所属 普通科1年8組 ②人数 41人（男子22人、女子19人） ③特徴・ニーズ プレゼンを楽しむことができるが、もっと効果的にできるようになりたいと考えている生徒が多くみられる。
	2	授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないといふことは何ですか 健康につながる食生活について、その特長を説明することができる。 次にどこで使いますか 生涯の健康を見据えた食生活を送るための調理実習について、家庭実習の場面で応用することができる。
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 食生活の基礎知識理解② ②C/Eの問い 「生涯の健康を見据えた食生活のために、あなたがこれから実践することは？」 ③方法 ☐ 講義 ☐ 演習 ☒ グループワーク ☒ 実演 ☐ 実習 ④ICT ☒ 実物投影機 ☐ タブレット ☐ _____ ⑤単元計画 (1) 食生活の基礎知識理解①-⑤(10h) (2) 調理実習1「郷土の野菜を利用した調理実習」(2h) (3) 反転調理実習2「親子どんぶり・青菜のピーナッツ和え」(本時1/2h)(動画視聴と実習計画表の作成後、家庭実習および報告) (4) 調理実習3「ALT出身地のテキサス料理実習」(2h) (5) 調理実習実習計画表の再点検(プログラミング的思考)(1h) (6) 全国高等学校家庭科技術検定食物調理4級受験(2h)
	4	教員の評価の方法	①方法 ☐ 小テスト、 ☒ 定期考査、 ☒ レポート、 ☒ 実習計画表提出、 ☒ 実技テスト ②ICEに当てはめると？ ☐ ideas(知識、技能の習得)： 日本人の食事摂取基準をはじめとする基礎知識を確認できる。 ☐ connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 基礎知識や調理実習の体験をもとにした家庭実習で、健康的な食生活につなげることができる。 ☐ extensions(応用、活用)： 将来の自らの健康へ、現在の食生活が繋がっていくことを想像でき、家族の食事計画・実践へとつなげることができる。
出口・評価	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ☆☆☆ きわめる力 ☆☆☆ つなげる力 ★★★
	6	生徒のリフレクション	プログラミング的思考を意識し、家庭での調理実習の手順を自分事として作成することができたか？
生徒の自己評価	7	ICEモデルに当てはめると	☐ ideas(知識、技能の習得)： 心身ともに健康であるための食生活に関する基礎知識が確認できたか？ ☐ connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 食生活の課題解決に向かうよう、知識・技術をよりよい食習慣形成につなげることができたか？ ☐ extensions(応用、活用)： 生産的な質問作成を通して、生涯の健康を見据えた食生活を考えることができたか？
	8	教員のリフレクション	実習手順を相互評価する機会を作り、デバックの機会を設定する。
継続	9	IDモデルに当てはめると？	TOOL3 メリルのID第一原理 「応用」与えられた条件で何が起きるかを予測させる。

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。